

特集 茗溪創基 150 年

目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 新年のご挨拶 茗溪会理事長 江田昌佑 …… 03
- 年頭挨拶 筑波大学長 永田恭介 …… 04
- 茗溪創基 150 年記念式典（予告） …… 05
- 全国産業人会（予告） …… 06
- 令和 3 年度教職相談窓口一覧 …… 07
- 謹賀新年 令和 4 年 今年もよろしくお願いいたします …… 08 ～ 09
- 犯罪被害者支援のこと …… 10 ～ 11
- 誌上講座 …… 12 ～ 13
- 寄付～むかし話 …… 14 ～ 16
- 筑波大学はいま …… 17
- 茗溪・東西南北（東京茗溪会第 9 回総会） …… 18 ～ 19
- Peer Garden（交流広場） …… 20 ～ 22
- 桐の葉のつどい …… 23 ■ 著書紹介 …… 23
- 茗溪学園だより …… 24 ■ 追悼録 …… 25
- 令和 3 年秋の叙勲おめでとうございます …… 26
- 広報 …… 26 ■ 表紙のことば …… 26
- 編集後記 …… 26

茗溪



正月
2022
令和 4 年
no.1111



日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

ユーハイム®

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHS からはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉学にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者様の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭に在るような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っています。



はぐくむ、大切なことのすべて

SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町1-17-10 シダックス新宿セントラルロード
TEL.03-6632-5052 (代表)

KAIT

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

■工学部

機械工学科 機械工学コース
機械工学科 航空宇宙学コース
電気電子情報工学科
応用化学科

■創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

■応用バイオ科学部

応用バイオ科学科 応用バイオコース
応用バイオ科学科 生命科学コース

■情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)
管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

特命顧問 河野 隆二(S47 農)

教職センター 大畑多津雄(S52 理)(神奈川茗溪会会長)

I R 室 望月 正大(S51 理)(同 副会長)

公務員対策室 林 忠(S58第1自)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

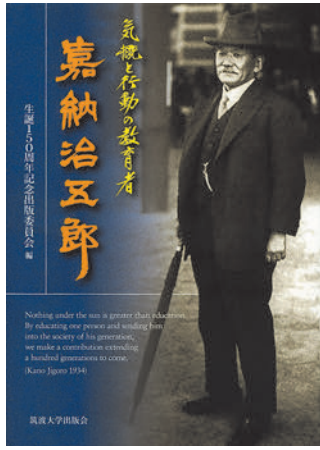
〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:https://www.kait.jp/

記念品のいつ

令和四年正月の『茗溪』を飾るのは、「茗溪創基一五〇年」の記念品である。

「自他共栄」は嘉納治五郎の名言で、『大概と行動の教育者 嘉納治五郎』（生誕一五〇周年記念出版委員会）の中に、以下の紹介がなされている。

「人が共同生活をしている以上、相互の間を融和協調する必要がある、それには互いに譲り互いに扶けることをしなければならぬ。他者に誠実に尽くしてこそ自己の完成も社会の発展もなされる。真に善隣の道を尽くしてこそ、その結果我が国の利益になる。嘉納治五郎先生は教育やスポーツなどの場面でこうした例を引用して、自他共栄を説かれた。」



嘉納治五郎については、二〇一七年の『茗溪』夏号（1094）から二〇一八年の『茗溪』正月号（1096）にかけて全三回にわたって特集が組まれていた。



特集 人間嘉納治五郎を語る

〔第1回〕
**オリンピックを
世界共通の文化にしたい**
～嘉納治五郎の目指したオリンピック～



特集 人間嘉納治五郎を語る

〔第2回〕
「精力善用」と「自他共栄」
～嘉納治五郎が求めた柔道の理念～



特集 人間嘉納治五郎を語る

〔第3回〕
**天下のこと、天下これより
偉なるはなし**
～教育者としての嘉納治五郎～



内容については、「茗溪会ホームページ」のトップページ上の季刊誌『茗溪』のバックナンバー（または「一覧表」）から入り、ご覧いただきたい

右がその表題と掲載号の表紙である。
江田理事長、阿江副理事長（S57筑博体、筑波大学教授）、真田理事（S56教修体、筑波大学教授）、そして山口香氏（H1筑修体、筑波大学教授）が対談をする形で進められ、興味深い内容や資料が紹介されている。
全三回で十九頁にわたり、字数四万字の大部の内容であるから詳細は控える。



書を手にする江田理事長と中村伸夫氏

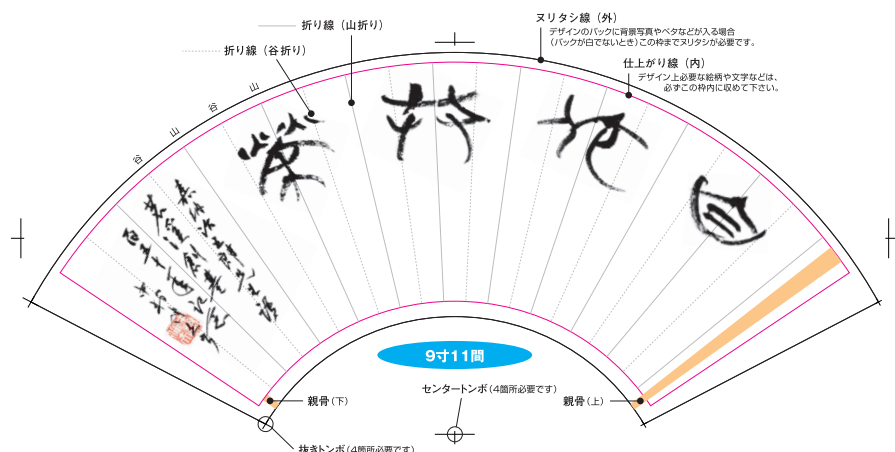
「扇子の書について」、解説が添えられていた。
「嘉納治五郎先生の名言「自他共栄」の四字を、繁栄を象徴する末広がりの扇面揮毫した作品です。
嘉納先生は中国古代の思想書を愛読されましたが、そのことに因み、紀元前の古代文字を素材としました。
特にこの作品は、秦の始皇帝が天下を統一する以前の戦国時代に、南方の強国「楚」で行われていた竹簡の文字を応用したものです。
記念品としてのこの扇子が、実用にも供されるよう、清楚で涼やかな表現となるよう筆を運びました。」

中村伸夫氏の略歴

- 1955年 福井県福井市に誕生
- 1978年 東京教育大学教育学部芸術学科卒業
- 1979-1981年 中国政府奨学金留学生として北京に留学
- 1982年 筑波大学修士課程芸術研究科修了
- 1985年 福島大学教育学部助手（講師）
- 1988年 筑波大学芸術学系（現芸術系）講師
日本書芸院展 日本書芸院大賞
- 1995、1999年 日展特選
- 2004年 日本書院常任理事
- 2008年 書学書道史学会副理事長（2020年- 理事長）
- 現在 筑波大学名誉教授
公益社団法人日展会員
読売書法会常任理事

制作は、奈良県葛城市在住の吉岡寛人氏（日10筑大、吉岡印刷株式会社）が引き受けてくれた。

四文字をバランスよくしかも折り線に邪魔されないように配置するには、かなりの神経を使うそうである。とくに、後尾の署名部分は折り線にかからないように細心の注意が払われる個所という。



● 穆如清風

四十年前の「茗溪会百周年記念」の際にも、扇子が記念品として贈られた。

扇子には、「穆如清風」の四文字が墨痕淋漓、鮮やかに揮毫されていた。

「その年百歳を迎えられる諸橋博士の揮毫を戴くことに決め、門下生鎌田正氏を通じて博士にお願い申し上げた」（『茗溪会百年史』）と記されていた。

諸橋轍次（M41国漢）は快諾し、昭和五十七年正月に書き上げられた。書について解説が添えてある。茗溪百年の先達の輝かしい事績を詩経の語を借りて讃えたものであった。

「穆として清風の如し」と読む。詩経の烝民の詩の中の一句である。作者尹吉甫は周の宣王に事えた名臣だが、弱きものをしたげず、強きものを恐れず、治績が多かった。しかも其の功を私せず、宣王の徳は和穆清風の万物を感化するようだとたたえているのである。

穆は和なりとも、また深遠なりとも解しているが、要するに人柄にしても事業なりとも、人目にはつかないが自然に深く影響を他に及ぼすさまである。

詩は比興を尊ぶ。茗溪の先達百年の成績は此に似たものがあるように思うから茲に採録した。また扇子は風を生ずるためのものだ。」

壬戌佳月 百歳の老叟 諸橋轍次 記



「穆如清風」の四文字が墨痕淋漓、鮮やかに揮毫された扇子と諸橋轍次による解説書、と箱一式

「扇子について一言したい。齢百歳の先生が、渾身の力をふりしほつてもめされたと承るだに、そのありがたさを覚えてきたのだが、その先生は、今やこれを最後に昇天されてしまった。もうこの扇子は、ただの記念品ではなく、世にも得難い絶品となった」（『茗溪』956号）と阿部二郎（S9体甲・15大教）は感慨を述べていた。

諸橋轍次は還暦を迎えた昭和十八年に『大漢和辞典』第一巻を上梓したが、昭和二十年の東京大空襲で出版元が罹災し、全巻の組版及び資料を焼失した。

戦後、再び編纂作業に取り掛かり、全十三巻が完成したのは昭和三十五年であった。大修館書店主鈴木一平から編纂の構想を持ちかけられたのは大正十四年、本格的な着手は昭和四年であったから、実に三〇年余にわたる大仕事であった。

「茗溪会創立百周年記念式典」挙行後の十一月に、『大漢和辞典』の縮刷版『大漢和辞典』が刊行された。その翌月、諸橋は逝去した。

（『茗溪百五十年誌（仮称）』原稿より）

門下生であった鎌田は、諸橋を「一貫して儒学者をもって自任」し、「学問即修己の立場を取られている」ところに、「修己治人を使命とする儒学の研究を根幹とされる先生の一大特色がある」と評し、「学識徳望の両面を兼ね備えられた碩学大儒」（『茗溪会百年史』p1021）と讃えて、感銘してやまない事として、以下の逸話を紹介している。

紀宮様御降誕の前年、そのご慶兆が発表された頃、先生宅をお伺いした私は、迂闊にも「この度も御命名撰進の天命を拝されたことでしょう」とお尋ねすると先生は言下に、「その様な事はない」と語気を改めて申され、私は軽率を恥じ、身の置き所もなかった。

ところが翌年、内親王様が御降誕にあられ、先生が御命名撰進の一人であることが紙上に報道されたが、そのころお伺いした私に対して、先生はいとも懇ろに、「君に対して偽りを申したことは、ただ一度ある。昨年、君が尋ねた御命名撰進の天命は実はあの時既に仰せついていたが、口にすべきことではないから言わなかったのだ」と威儀を正して頭を下げられた。

（『茗溪会百年史』）

新年のご挨拶

一般社団法人 茗溪会

理事長 江田 昌佑



新年あけましておめでとうございます。

全国会員の皆様のみすますのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

今年こそは、希望のもてるそして少々華やかしみが少しでも体験できる年にしたいものです。

コロナ禍をはじめ自然災害等の被害を被られ、ご不自由な日常生活の方々がおいでの事と存じます。心からのお見舞いを申しあげます。

昨年10月中旬頃から、コロナ感染は急速に減少傾向にあります。政府はコロナ禍第6波は1月中旬頃を予測しているようです。昨今、新変異株「オミクロン」が南アフリカで見つかり、世界が警戒を始めました。WHOは「懸念される変異株」に指定しました。われわれとしては、日常の生活の中で、感染対策を気をゆるめることなく励行し、終息に向かって努力に勉めなくてはなりません。

さて、本年は茗溪会にとって歴史的な行事、また宿願でもある茗溪創基150年記念事業の主要行事の実施年に当ります。そして本事業展開により次の時代への進歩の契機としたい希望の年でもあります。

振り返りますと、第7回通常総会の理事長挨拶の中で次のように述べています。

「2022年に茗溪創基150年を迎えるに当たり、本年1月、本部理事会は『茗溪創基150年記念事業準備室』を立ち上げました。この事業の意義は、150年の歴史の中で、時代を乗り越えて本会が連綿と活動してきたことに対して敬意を表するとともに、茗溪の先達に思いを馳せ、レガシーを大切に、未来に亘り本会の新たな発展を期する意義ある記念事業を興すことにあります。茗溪の仲間に関わり、より絆を深める互助の事業として、また、次世代へ

の伝統継承の事業として計画したいと考えています。」(「茗溪」2018年夏号)

以来、記念事業実行準備会(準備室を改称)が中心となり、毎回の理事会、各種委員会等々で議論を深め準備・実施を進行して参りました。毎回の通常総会、季刊誌「茗溪」、茗溪ホームページその他の機会を通してお知らせしている通りです。

ただ、まことに残念なことに、ほぼ2年間に亘り、コロナ禍で幾つかの事業が中止・延期、或いは修正を余儀なくせざるを得ない経過もありました。令和2年の「追悼のつどい」は、結果として不開催。そこで令和3年の「追悼のつどい」に前年度と併せて行うことを決意し、コロナ禍の状況をにらみながら、11月23日にと決め、万全の対応策の中で開催することができました。

【茗溪の歴史の中で、明治18年から合祀慰霊祭(現在は追悼のつどい)が不開催となったのは、昭和20年の終戦の年と令和2年のコロナ禍による行動規制の年の2回でありました。】

開催当日は、前年度を含め302柱の追悼の式を予定通り挙行できました。御加護あつてのこととすべてに感謝申し上げたい真情でした。列席のご遺族27組46人の方々が、式典及び後半の懇談・懇親の会に、故人の足跡に思いを馳せながら、ご遺族同士の打ちとけた

交流の実をあげて下さったことは本会にとっても意義深いものでした。行動規制の大幅緩和の期間でもあり、実施できたことはまことに好都合でした。

今後、重要な行事の茗溪創基150年記念式典が4月29日(祭)開催で準備が進んでいます。(詳細は当実行準備委員会のご案内を参照のこと)

また、1年間の延長で、難儀を繰り返しています茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会は10月2日(日)を予定して準備進行中です。

記念誌「茗溪創基150年の歩み」は次年度発刊ではありますが、諸作業等は年内での工程であり、現在編集関係は鋭意取り組み中です。

今回の記念事業に関しては、全国の会員の皆様が何らかの在り方で参加・関りができることを一貫して願って参りました。幸い、今までに多数の方々のお力添えを得て進んで参りました。感謝しております。

そして、ただ今では、最後の仕上げの期間になってきています。

本部理事会は「盡己殫成」(嘉納先生のお言葉)を体現すべく全力で事に当る覚悟であります。

茗溪会の記念事業は、全国会員の皆様のお力で立派に遂行できますことを心から願い、新年のご挨拶といたします。

筑波大学長年頭挨拶

筑波大学長 永田 恭介



明けましておめでとうございます。
旧年中は、茗溪会の皆様には様々なご支援をいただき誠にありがとうございました。

猛威を奮った新型コロナウイルス感染症は、昨年8月には一日あたり25,000人を越える新規感染者を出していたにもかかわらず、11月末には一日あたり100人を下回る状況となってきました。油断は禁物ですが、コロナウイルスと共存する新しい日常が始まりました。我が国では、2020年1月、クルーズ船の乗客に感染者が見つかったから、実に2年近くの月日が流れました。今では、本学でもキャンパスは開放され、授業や課外活動も平常状態に戻りつつあります。授業については、オンラインとオンサイトのそれぞれの良さを活かして、両者を組み合わせ

進められています。

昨年の夏には、東京で2度目となる東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催されました。残念ながら、競技場での観戦はかきませんでしたが、テレビなどを通じて世界中のアスリートの活躍に胸を躍らせることができ、また障害を持った選手たちが極めて身近に感じられる大会でした。筑波大学はスイスチームの事前キャンプ地となり、多くの教職員と学生ボランティアがスイスチームを支えました(写真)。その結果、スイスチームの選手達からは感謝のみならず、つくばへの好感を表す言葉をいただきました。もちろん、在学生や卒業生も活躍いたしました。オリンピック・パラリンピック合わせて2つの金メダル、3つの銀メダル、4つの銅メダルを獲得しました。男子柔道81kg級では卒業生の永瀬貴規さんが本学にこの種目初の金メ



スイスチームの練習風景
(筑波大学オリンピック・パラリンピック総合推進室HPより)

ダルをもたらしてくれました。

今年4月からは、第4期中期目標期間が始まります。第3期中期目標期間では、「国際性」と「学際性」をキーワードとして、本学の強みを強調するよう努力してまいりました。新年度からは、「エンゲージメントの強化」と「固定化された社会の変革」を目指して、歩を進めてまいります。どちらも建学の理念に述べられているポイントです。エンゲージメントは、契約、約束などを意味しますが、本質的にはある対象への愛着や没頭、自発的な貢献意欲などを意味しています。これは大学と多様なステークホルダーが互いに貢献し合うということではないかと解釈しています。分断や差別などで固定化された社会をより良い社会に、well-beingが実感できる社会に変えていかなければなりません。そして今年4月からは、指定国立大学法人としての日々が始まります。指定国立大学法人は、世界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を文部科学大臣が指定するものです。これまでに10の大学(東北、筑波、東京、東京工業、一橋、東京医科歯科、名古屋、京都、大阪、九州)が指定を受けています。長年の先輩諸氏の弛まぬご努力とそれにより挙げられた数々の成果の上に認められたものであり、教職員、学生一同、気持ちを引き締めて、教育・研究を始め日々の活動を進めてまいります。

本学は、本年の元旦を迎えるとともに

に、9ヶ月後には師範学校から数えて創基150年を迎えます。国立(創基当時は官立)の高等教育機関としては最初に150年の節目を迎えます。そして、1年9ヶ月後には筑波大学は開学50周年を迎えます。記念式典(開学50周年・創基151年)のための準備も始まっています。これまでに築き上げてきたレガシー、様々な教育・研究の成果を礎に、次の50年に向かってしっかりと歩み続けなければなりません。研究力と人材育成力を磨き上げ、世界に伍する大学へと成長できるように研鑽を続けなければなりません。加えて、その記念日が過ぎれば、法人化後20年を迎えます。法人化とは、国立大学の経営体への転換を意味しています。国からの運営費交付金は大学活動の基盤を支えるものではあっても、大学の夢を叶えるためには全く十分なものではありません。本学の経営強化を図り、全筑波大学人が協力して、本学の夢、本学に関わる者と関わった者の夢、本学に期待してくれている人々の夢を実現してまいります。

本学は激動するグローバル社会の中で、社会を変革するエンジンとして、世界的なインパクトを生み出し、社会の既存の価値を変えるような教育・研究を行う決心です。伝統ある貴会と同窓生諸兄姉には、ますますのご発展を祈念申し上げますとともに、本学の様々な活動にご理解をいただき、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

開催案内

茗溪創基一五〇年記念式典

明治期から築いてきた一五〇の年輪を誇りとし、
確かな未来づくりを進めましょう！

茗溪創基150年記念事業実行委員会
一般社団法人 茗溪会

すべての茗溪会員の皆さん

世界的規模で席巻したCOVID-19の影響が続いていますが、一人ひとりの人生観に基づく考えと行動等があり、「コロナ禍」を乗り越えてこれれたと思います。さて、第七回一般社団法人茗溪会定時総会において、江田昌佑理事長から次のような挨拶がありました。（抜粋）

「二〇二一年に茗溪創基一五〇年を迎えるに当たり、本年（二〇一九）一月、本部理事会は「茗溪創基一五〇年記念事業準備室（現在、同実行委員会）」を立ち上げました。

この事業の意義は、一五〇年の歴史の中で、時代を乗り越えて本会が連綿と活動してきたことに対して敬意を表すとともに、茗溪の先達に思いを馳せ、レガシーを大切に、将来に亘り本会の新たな発展を期する意義ある記念事業を興すことにあります。」

主な記念事業は、

- (1) 前倒し事業として、
 - ・ 占春園再生プロジェクト
 - ・ 茗溪・筑波産業人倶楽部の発足
- (2) 主用事業として
 - ・ 茗溪創基一五〇年記念式典
 - ・ 産業人倶楽部全国展開発表の会
 - ・ 記念誌の発行を計画しています。

以下、「茗溪創基一五〇年記念式典」の案内をさせていただきます。

●茗溪創基一五〇年記念式典の概要

- ・ 日時 令和四年四月二十九日（金）
- ・ 会場 茗溪会館
- ・ 式典
- ・ 懇親会
- ・ 閉会

【式典】十三時～

- ・ 開会の言葉
- ・ 式辞
- ・ 祝辞
- ・ 来賓紹介
- ・ 表彰状・感謝状贈呈
- ・ 一五〇年記念事業報告
- ・ 記念写真・宣揚歌

【懇親会】十四時～

- ・ 参加費 五千元（参加者全員）
- ・ 記念品 扇子

以上が、記念式典の概要です。

開催予定日の四月二十九日は、神田明神境内の雪月楼の会合で「相共に茗溪の上に於いて蛍雪を俱せし…同窓の交誼を継続し、共に教育の進歩を謀る」目的で同窓会が設立され、「茗溪会」と名付けられた日であります。明治十九年のことで、母校創立から十年目に当たります。

わずか十九人からの出立でしたが、現在は、登録会員五万人余の、堂々たる組織となりました。

この節目の式典に、ぜひご参加いただきたいと存じます。グランドテーマ「伝承と創造」の下で、「茗溪創基一五〇年」をお祝いし、吾らが時代のさらなる地平を望む会といたしましょう。

式典当日は、コロナ禍事情を考慮しながら、全国の仲間が集う懇親の場を用意させていただきます。

●茗溪会創立百周年記念式典・祝宴

四〇年前の茗溪会百周年記念行事の様子を覗いてみたい。茗溪学園創設3年後に、茗溪会は百周年を迎えた。記念事業として、茗溪学園の創設、茗溪会百年史の編纂、そして記念式典が予定された。

記念行事は、昭和五十七年、母校創立記念の日（十月三十日）に開催された。

式典は附属小学校講堂、祝賀会は茗溪会館で開催された。参加費は一万円、贈品は『茗溪会百年史』と扇子であった。

筑波大学男声合唱団と茗溪学園吹奏楽部の演奏が華を添え、上映された「筑波大学」は、参加者を感無量とさせた。

当日の参加は多数に及ぶと見込まれ、式典会場を附属小学校とした。祝賀会場は茗溪会館である。移動距離が長く「荒天とならぬことを祈るのみであった」と、式典委員の阿部二郎は述懐する。

当日は晴天に恵まれ、会場移動がてら「荒れたまま昔を語る占春園」を漫ろ歩くことができた。祝宴は参加多数に及び各階分散の宴席であったが、各自適宜に席を得て、「狭いながらも我が家とばかり、心行くまで手を取り声を張り上げ歓を尽くしておられた光景」が各階で繰り広げられ、「流石、水よりも濃い血で結ばれた茗溪同士の真の姿なると、ほほえましくも頼もしい限りであった」と、阿部は感動し、「前日まで、天気との分散方式で頭を痛めたことが、全く杞憂にすぎなかった」と述懐していた。

茗溪・筑波産業人倶楽部 全国展開発表の会

○日 時：令和4年10月2日(日) 13:00-16:00

○場 所：茗溪会館 2階「茗溪の間」

1. 講話の部

- (1) 挨拶：茗溪会理事長
(2) 講話：コロナ禍を越えて明日を拓く(仮題)
講師：長瀬 要石氏(教大農経1960卒、茗溪会穆談会)

2. 全国展開発表の部

- (1) 挨拶：井口副理事長(茗溪・筑波産業人倶楽部運営部参与)
来賓挨拶：佐藤 忍(特別理事)
(2) 報告：
「産業人倶楽部」発足の歩み 廣田理事(茗溪会組織委員長)
「産業人倶楽部」主催の「OB・OGキャリアカフェの活動」
(3) シンポジウム：全国各ブロックの動向「設立と未来に向かって」
関東・甲信越ブロック、近畿ブロック、九州ブロック、その他
(4) 意見交換
(5) 記念写真・宣揚歌

3. 懇親の部

4. 閉 会

【講師紹介】長瀬 要石(ながせ ようせき)氏

略 歴

昭和35年 東京教育大学 農村経済学科卒業
同年 農林省入省
昭和41年 経済企画庁(現内閣府)に出向・移籍
昭和49年 大臣秘書官(福田赳夫副総理・経済企画庁長官)
昭和61年 通商産業省中小企業庁指導部長
平成元年 国土庁計画・調整局長
平成3年 経済企画庁物価局長
平成4年 経済企画庁総合計画局長
同年 経済企画庁調整局長
平成5年 (財)機械振興協会副会長・経済研究所長
平成8年 (株)富士通総研副理事長
平成9年 海外経済協力基金副総裁
平成11年 国際協力銀行副総裁
平成14年 コーエイ総研会長
現 在 NPO法人開発政策研究機構理事
公益財団法人都市化研究公室評議員会議長

著 述

「分水嶺に立つ日本経済」(1995、筑波書房)
「日本経済の分水嶺—平成から令和へ」(2019、22世紀アート)
「評伝 福田赳夫」(共著)(岩波書店、2021.7刊行予定)ほか

コロナ禍を越えて明日を拓く(仮題) 要旨

- ★コロナ禍は、各国の統治力の巧拙を白日のもとに晒した。日本はどうか。石油危機やバブル崩壊の経験と対比しながら、日本社会の強みと統治の弱みを捉えてみたい。
- ★危機は、経済や産業、働き方や住まい方、国際関係などの転換を促すきっかけともなる。日本はこのコロナ禍を、明日への適応と転換のチャンスとしてどう生かしたらよいか。
- ★コロナ禍で、2020年代がかかえる日本の課題は難しさを増した。平成が令和に先送りした重荷にコロナ禍のツケが上乗せされたからである。もはや、課題解決の先送りは許されないだろう。
- ★茗溪・筑波産業人とその全国ネットワークに期待するところ大である。

◇茗溪・筑波産業人倶楽部

全国展開発表の会

昨年の一〇月に開催を予定していた会合でした。一五〇年記念式典前に開催する予定でした。茗溪会の行く末を占うものとして最も相応しい企画と考えていたからです。

新型コロナウイルス感染拡大が日本列島を不安に陥れた昨年の夏に延期を判断し、晩秋

の理事会(11/23)で、今年の一〇月開催を決定しました。

ぜひ成功させて、茗溪創基一五〇年以後の茗溪会の更なる発展の礎としたい。

これが祈りにも似た願いです。

茗溪創基一五〇年を機に新企画された「茗溪・筑波産業人倶楽部」は、首都圏に限らず各地域(地域ブロック)等を単位として、教育界と産業界(官界も含む)

の大同団結を目指すことを企図してきました。全国展開を目指すという意図は、これまでの動きと一線を画します。

昨年の季刊誌『茗溪』正月号(1107)に各地域の活動報告を一挙掲載させていただきました。その中で注目すべきは、茗溪会が「教員だけの会」という印象のまま運営されてきたことを「半ば必然的ともいふべき組織的・将来的課題」(埼玉支部)とし、事態を打開しようとする動

きが始まっていることでした。この動きの集約こそが「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」とお考え下さい。

参加は自由です。久しぶりの全国レベルの会合です。「秋の定時総会」とお考えいただき、新型コロナウイルスの事情次第ではありますが、ぜひぜひ、ご参加下さるようお願い申し上げます。

令和3年度 教職相談窓口 一覧

筑波大学 社会連携課教職サポートルーム相談窓口（任期R3.4.1～R4.3.31）

番号	名称	姓名	卒年	卒科・群	役職1（茗溪会関係）	役職2（自治体）
1	連携課	武井 秀一	昭51	教大化	教職部会員	元/土浦第一高等学校 校長
2	連携課	青砥 武夫	昭55	筑二農林	会員	元/水戸農業高等学校 校長
3	連携課	佐藤 達	昭53	教大農化	会員	元/水戸市立第四中学校 校長
4	連携課	植木 邦夫	昭58	筑二人間	（教職部会員）	前/土浦第一高等学校 校長

茗溪会窓口（任期R3.9.1～R4.8.31）

番号	名称	姓名	卒年	卒科・群	役職1（茗溪会関係）	役職2（自治体）
1	北海道	川口 淳	昭58	筑修教	代議員	札幌龍谷学園高等学校 校長
2	青森	前田 済	昭59	筑一自	支部長	青森大学 教授
3	岩手	清水 将	平10	筑修教	会員	岩手大学教育学部 准教授
4	宮城	齊 隆	昭57	筑一自	前/支部長、顧問	岩沼市教育委員会教育総務課 教育指導専門監
5	秋田	猿橋 薫	昭57	筑体	会員	前/県立雄物川高等学校 校長
6	山形	鳥羽 聡	平08	筑体	事務局長	県高等学校体育連盟 事務局長
7	福島	大沼 博文	昭56	筑二人間	支部長	（公財）福島県文化振興財団 理事長
8	茨城	高村 祐一	昭61	筑一人文	支部長	県立水戸第一高等学校・附属中学校 校長
9	栃木	上岡 利夫	昭53	筑一自	元/支部長	宇都宮大学 教職センター特任教授
10	群馬	西村 琢巳	平03	筑修教	会員	県立前橋女子高等学校 校長
11	埼玉	田中 邦典	平04	筑修教	会員	県教育局高校教育指導課 教育指導幹
12	千葉	百瀬 明宏	昭55	筑一人文	支部長、理事	秀明大学 教授
13	東京	高橋 基之	昭53	筑一自	支部長、理事	東邦音楽大学附属中学校・高等学校 校長
14	神奈川	大畑 多津雄	昭52	教大数	支部長	神奈川工科大学 教職教育センター 支援室長
15	山梨	小俣 宏記	昭59	筑体	支部長	県立城西高等学校 校長
16	長野	巻山 圭一	昭59	筑一人文	支部長、代議員	県立松本蟻ヶ崎高等学校 校長
17	新潟	山下 幸治	平08	筑芸修	事務局長	県立柏崎総合高等学校 教頭
18	富山	福島 英晴	昭57	筑三情	支部長	県立富山高等学校 教諭（再）
19	石川	居村 吉記	平01	筑体	会員	県教育委員会保健体育課 課長
20	福井	金崎 肇	昭59	筑一自	支部長	県立羽水高等学校 校長
21	静岡	小川 伸吾	昭60	筑一人文	支部長	県立沼津西高等学校 校長
22	愛知	蟹江 吉弘	昭61	筑一人文	事務局長、代議員	県立横須賀高等学校 校長
23	岐阜	鈴木 健	昭59	筑二生	支部長	県立岐阜北高等学校 校長
25	三重	岡村 芳成	昭63	筑体	支部長	県立四日市中央工業高等学校 校長
24	滋賀	藤江 隆史	平08	筑一自	事務局長	県文化スポーツ部競技力向上対策課 副主幹
26	京都	三橋 利彦	昭58	筑隊	支部長	府立東稜高等学校 教諭（再）
27	大阪	岡村 多加志	昭55	筑一自	代議員	府立生野高等学校 校長
28	兵庫	升川 清則	昭59	筑体	支部長、代議員	県立兵庫高等学校 校長
29	奈良	井上 徳之	昭58	筑一自	事務局長	県立高田高等学校 教諭（再）
30	和歌山	岡本 規	平05	筑体	庶務	（公社）和歌山県体育協会 事務局長
31	鳥取	小倉 建一	昭53	筑体	支部長	前/県立八頭高等学校 校長
32	島根	野々村 卓	昭58	筑一人文	代議員	県立安来高等学校 教諭（再）
33	岡山	長尾 隆史	昭55	筑体	支部長	前/岡山県立水島工業高等学校校長
34	広島	谷川 秀樹	昭60	筑体	会員	県立祇園北高等学校 教諭
35	山口	藤本 秀夫	平05	筑修体	事務局長	宇部フロンティア大学付属香川高等学校 教諭
36	徳島	田北 直樹	平05	筑体	事務局	県体育学校安全課 主任
37	香川	山本 主税	平01	筑一人文	元/支部長、代議員	県立小豆島中央高等学校 校長
38	愛媛	星川 志朗	昭61	筑修教	支部長	県立新居浜南高等学校 校長
39	高知	田頭 克文	昭57	筑体	支部長	県立高岡高等学校 校長
40	福岡	稲富 勉	昭61	筑体	支部長、代議員	福岡県立スポーツ科学情報センター 所長
41	佐賀	松雪 誉	昭61	筑体	支部長、代議員	県立鳥栖高等学校 校長
42	長崎	山口 千樹	昭60	筑二生	支部長、代議員	県立長崎北陽台高等学校 校長
43	熊本	寺本 護	平08	筑体	前/事務局長	県教育庁学校安全安心推進課 課長補佐
44	大分	田崎 弘宣	昭63	筑体	前/事務局長	県立安心院高等学校 主幹教諭
45	宮崎	松田 太郎	平04	筑芸	会員	県立宮崎商業高等学校 教頭
46	鹿児島	鹿倉 貢	昭57	筑体	前/事務局長	（公財）鹿児島県学校給食会 理事長
47	沖縄	三輪 一義	平02	筑修体	事務局長	琉球大学教育学部 教授

*所属1の支部長はそれぞれの地域（支部）の長、会員はその地域の会員



謹賀新年

祝 茗溪創基150年

「天下の師表たらんと青雲の思いを胸に、私達は笈を負って教育の総本山、憧れの桐花寮の門をくぐった」(『茗溪』966号)。昭和19(1944)年、堀江澄男氏(1948理四)の回想である。

明治5(1872)年、昌平黌の講堂を仮用し、二人の日本人(校長諸葛信澄、通訳坪井玄道)と米国人教師スコット(Marion McCarrell Scott)、この細やかな陣容から“茗溪の流れ”は始まる。他方、茗溪会は、その10年後、神田明神雪月楼の会合で「相共に茗溪の上に於いて蛍雪を俱せし…同窓の交誼を継続し、共に教育の進歩を謀る」目的で同窓会を設立し、「茗溪会」と名付けた。

茗溪創基以来、幾度か母校は校名や目的・性格を変更をしてきた。第6代理事長の柴田周吉は、この茗溪の流れを「よく戦いよく順応した」と評した。茗溪の歴史は「伝承と創造」により幾多の時代を拓き、いま、茗溪創基150年を迎えている。

平成最後の定時総会を機に、占春園再生事業を始めとする記念事業が先行実施され、醸金の呼びかけもなされました。その矢先のコロナ騒動は百年前のパンデミックにも似ています。百年前は、その只中で母校昇格運動が展開され、宣揚歌が作られました。百年後に生きる茗溪人は、コロナ禍の中で、いかんともしがたく、もどかしい気持ちでおります。せめて、“未来への創造を目指す”寄す処として、茗溪会理事及び監事による賀詞交換をさせていただき、その掲載料を寄付とすることとしました。

一般社団法人 茗溪会 理事長 江田 昌佑 (昭和30教大休) ・筑波大学名誉教授	一般社団法人 茗溪会 副理事長 井口 武雄 (昭和40教大法政) ・企画運営委員会委員長 ・三井住友海上火災保険名誉顧問	一般社団法人 茗溪会 副理事長 阿江 通良 (昭和57筑博休) ・学生活動支援事業選考委員会委員長 ・日本体育大学教授
一般社団法人 茗溪会 常務理事 川田 孝一 (昭和39教大総農) ・茗溪創基150年記念事業委員会委員長 ・桜美林大学入学部相談役	一般社団法人 茗溪会 常務理事 矢野 正人 (昭和53教修農) 本年は茗溪会にとって記念すべき年です。 事務局一丸となって下支えをいたします。 矢野 正人(S53教修農、事務局長) 室岡 和彦(H1筑修教、大塚・筑波事務所長) 大根 田裕(S54筑自然、事務所長代理) 瀧下 芳彦(S56筑基礎工、事務所長代理) 會田 芳光(元筑大職員、局長代理、会計) 前田 三郎(S48教農工、編集、柴田育英会) 野崎 芳恵(H12筑日日、局長補佐) 埜渡真樹子(H17筑人文、局長補佐) 立山 雅博(元筑大職員、所長補佐) 小山 恵子(元筑大職員、大塚事務所総務) 宮本 靖子(元筑大職員、筑波事務所総務)	一般社団法人 茗溪会 理事 新井 達郎 (昭和56筑博休) ・大学つくば地域支援委員長 ・筑波大学名誉教授
一般社団法人 茗溪会 理事 佐藤 忍 (昭和60筑博生物) ・特別理事 ・筑波大学生命環境系教授		一般社団法人 茗溪会 理事 佐藤 順一 (昭和56筑一社会) ・茗溪・筑波産業人倶楽部運営部会部長 ・(株)カクヤスグループ代表取締役社長

一般社団法人 茗溪会 理事 真田 久 (昭和54筑体) ・茗溪創基150年記念誌編集委員長 ・筑波大学特命教授	一般社団法人 茗溪会 理事 高橋 基之 (昭和53筑一自) ・教職研修部会部長 ・東邦音楽大学附属中高等学校長	一般社団法人 茗溪会 理事 田中 正造 (昭和36教大健) ・地代問題検討会議委員 ・(財)筑波学都資金財団理事長
一般社団法人 茗溪会 理事 谷出 正直 (平成17筑修体) ・組織委員会副委員長 ・採用コンサルタント・アナリスト	一般社団法人 茗溪会 理事 西川 綾子 (昭和58筑二農) ・広報委員会副委員長 ・(元)水戸植物園長	一般社団法人 茗溪会 理事 早川 源一 (昭和51教大東洋史) ・広報委員会委員長 ・(元)独立行政法人教職員支援機構
一般社団法人 茗溪会 理事 春山 賢男 (昭和57埼玉大院) ・組織委員会委員 ・秀明大学客員教授・同教育研究所教授	一般社団法人 茗溪会 理事 廣田 則夫 (昭和53筑一社) ・組織委員会委員長 ・(元)日立建機 執行役常務	一般社団法人 茗溪会 理事 福岡 一雄 (昭和32教大法政) ・組織委員会副委員長 ・福岡経営労務事務所長
一般社団法人 茗溪会 理事 宮尾 徹 (昭和54筑二農林) ・財務法務委員会委員長 ・海外貨物検査(株)経理部長	一般社団法人 茗溪会 理事 百瀬 明宏 (昭和55筑一人文) ・教職研究副部会長 ・秀明大学教授・同教育研究所長	一般社団法人 茗溪会 理事 守橋 健二 (昭和53筑一自) ・大学・つくば地域支援委員会委員 ・筑波大学名誉教授
一般社団法人 茗溪会 理事 柴田 淳 (昭和56筑修体) ・広報委員会副委員長 ・学校法人茗溪学園事務局長	学校法人 茗溪学園 茗溪学園中学校高等学校 理 事 長 中川喜久治 校 長 宮崎 淳 (平成2筑体) 学 園 長 田代 淳一 茗溪会理事 (昭和59筑修教) ・大学・つくば地域支援委員 〒305-8502 つくば市稲荷前1-1 TEL 029-851-6611	一般社団法人 茗溪会 監事 飯塚 良成 (昭和63慶大商) ・飯塚会計事務所
一般社団法人 茗溪会 監事 小泉 淑子 (昭和41教大法政) ・シティユーワ法律事務所		一般社団法人 茗溪会 監事 高野 力 (昭和48教大木工) ・(株)四国開発(委託)

犯罪被害者支援のこと

11月20日(土)夜、神奈川茗溪会「若手交流会」が開催された。この会は神奈川産業人倶楽部が合同開催という体裁をとっている。神奈川茗溪会副会長の中道徹弁護士(S59筑大生)が二人の若手弁護士を参加させていた。その一人、畔柳(くろやなぎ)秀勝弁護士(H4筑大人間)が「ミニブレゼン」を引き受けた。内容は興味深く、学校や企業内で知っておくべき情報と感じた。そこで、お願いして原稿を依頼した。

はじめに

みなさんは弁護士の仕事といえば、どんなイメージを持っているのでしょうか。刑事事件でいえば、加害者を弁護する弁護士でしょうか？

犯罪に遭った被害者(事件によってはその遺族も含む)を司法手続きでサポートしている弁護士(被害者支援弁護士)がいることは、あまり知られていません。本稿では、その制度と活動について紹介したいと思います。

とくに、被害者支援の制度によって、被害者の人権がどのように守られているのか、教育の場や企業内でお伝えされる際の参考ともなれば幸いです。

*なお、本稿での犯罪行為は、主に身体犯(殺人、傷害、性犯罪など)を念頭においておられます。また犯罪を犯したとして起訴された者は被告人といいますが、本稿では加害者で統一いたします。

犯罪に遭った被害者に生じる問題

犯罪被害に遭った被害者はどのような状況に陥るのでしょうか。以下は、典型的な問題で、こういったことが一度に起こります。被害者に接するときは、以下の状況もふまえて接することが被害者に新たな負担をかけないことに繋がります。

- ・心身の不調
感情や感覚のマヒ、恐怖・怒り・不安・自分を責める、事件のことが頭から離れない、不眠・食欲不振など
- ・日常生活上の困難
外出できない、家事や仕事が手につかない、転居など
- ・経済的な困難
医療費等の多額出費、休職や失業による収入減など
- ・周囲の人の言動による傷つき
興味本位な質問、安易な励ましや慰め、配慮に欠けるマスコミの取材・報道など
- ・捜査・裁判に伴う負担
何度も同じことを訊かれる、専門用語がわからないなど

(1) 被害者がおかれた状況の概説

これまでは、被害者が司法手続きに関わるのは、警察官や検察官から事情聴取を求められたり、法廷で証言を求められたりするくらいで、加害者を有罪にするための一証拠でしかない状況でした。

「被害者はひとつの証拠」という扱いからすれば、被害者は人権に重きが置か

れない状態に置かれることとなります。警察や検察での取り調べでは何度も同じことを話させられ、繰り返し犯罪被害のことを思い起こすことで苦痛を感じたり、世間の注目を集める事件の被害者であれば、マスコミが被害者を取り囲み取材をする報道スクラムと呼ばれる報道被害、そうなれば近所の人から興味本位で話題にされたり、ショックで仕事に行けなくなり金銭的に苦痛をうける二次被害をさ

らざるに被っていました。

(2) こういった状況に、被害者が「犯罪被害者の権利確立」を訴え、その後の犯罪被害者支援の流れを起こしました。

犯罪被害者の権利を確立する機運が盛り上がり、犯罪被害者のための施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として、平成16年12月「犯罪被害者等基本法」が成立しました。平成17年12月には「犯罪被害者等基本法」に基づき、総合的長期的に講ずべき犯罪被害者等のための施策を掲げた「犯罪被害者等基本計画」が策定され、現在は第四次犯罪被害者等基本計画が実施されています。

そして、犯罪被害者等基本計画で重点課題であった刑事裁判への被害者参加制度や損害賠償命令制度が制定されるに至っています(後述)

(3) 制度が活用されるために

制度ができましたが、手続きに不慣れた被害者が活用するのはハードルが高く、弁護士が早期にサポートに入ることが必要といわれています。そこで、各地の行

政や被害者支援団体が地元弁護士会と連携し、被害者に迅速に弁護士を紹介する制度が構築されてきています。

(4) 裁判外での支援

では、弁護士が具体的にどのような支援活動をしているのかについて裁判外と裁判上での主な支援活動を説明します。

① 通夜葬儀、報道対応

世間が注目する事件が発生した時に、報道関係者が被害者やその遺族を囲んで取材をしていたり、被害者が亡くなっている時に通夜葬儀会場で遺族のコメントや写真を求めて押し寄せたりする(報道スクラム)ことがあります。

被害に遭った直後ですから、非常に苦痛なことが多いのです。

このようなとき、被害者を支援する弁護士は、被害者のコメントを書面で出すことで直接の取材を回避したり、通夜葬儀会場に報道関係者を入れないようにすることで、被害者が二次被害を被らないようにサポートしています。

② 示談対応

加害者の弁護士から被害者に対して示談金(賠償金など)の提示がされることがよくあります。起訴前では示談金を渡して加害者が起訴されるのを防ごうとし、起訴後では加害者の刑が減じる要因としようとするからです。

被害者が提示された示談金が適当であるのか否か判断ができない場合がありますので、被害者支援弁護士は、適切な示談金になるように加害者側と交渉します。

(1) 被害者参加制度

被害者（遺族等も含む）が刑事裁判に当事者（被害者参加人）として公判期日に出席し、種々の行為を行うことができる制度です。

弁護士は、法廷内で刑事裁判に参加する犯罪被害者のサポートをします。

なお、保有している流動資産が一定額（200万円未満）の被害者参加人には国の費用で弁護士を選任できます（国選被害者参加弁護士）。

① 主な対象犯罪

- ・殺人、傷害などの故意の犯罪行為により人を死亡させた事件
- ・強制的性交等や強制猥褻等の事件
- ・過失運転致死傷事件 等



パワーポイントを使った発表後、質問に答える畔柳氏。画面右に映るオンライン参加者からの質問も行き交う。

② 公判期日に出席してできる行為

- ・被告人質問 被害者参加人が加害者に対して直接質問をして回答を得ることができます。被害者は、なぜ自分が狙われたのか、反省しているのか、損害賠償はされるのかなど、疑問に思っていることを訊くことができます。

弁護士は、効果的な質問を考えた上、被害者に代わって質問をするなどのサポートをしています。

- ・心情の意見陳述（被害者参加しなくても活用できる制度ですが、被害者参加手続きでも行われることが多いのでここで言及します。）

被害者が、犯罪に遭ってどれほど恐怖を感じたのかといった気持ち、犯罪後の生活への影響や現在の気持ち、どの程度の刑を科すべきなのかといったことを自分の言葉で裁判所に伝えます。

弁護士は、被害者の言いたいことを整理したりしながら、法廷で伝える内容を吟味して、心情がより効果的に伝わるようにサポートしています。

- ・事実や法律の適用についての意見陳述
- 被害者の視点で、事実認定、それに基づき成立する犯罪を総括して述べるとともに、加害者に科すべき刑を裁判所に主張するものです。通常、被害者支援弁護士がいるときは、当該弁護士が起案しそれを元に法廷で意見を述べます。

法廷内イメージ図



政府広報オンラインより抜粋 <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201312/3.html#anc03>

(2) 損害賠償命令

加害者に有罪宣告後、刑事裁判を担当した裁判官が刑事事件の証拠を使い、損害賠償請求についての審理も行い、加害者に損害賠償を命じる制度です。民事事件として損害賠償請求するよりも、被害者の負担が軽減されます。

① 主な対象犯罪

- ・殺人、傷害などの故意の犯罪行為により人を死亡させた事件
- ・強制的性交等や強制猥褻等の事件 等

② 被害者の負担軽減

- ・判決言渡後、ただちに損害賠償命令の審理が行われる。
- ・審理は4回以内で終了する（民事裁判は1年以上かかることもある）
- ・新たに証拠を揃える負担の軽減
- ・請求する賠償額にかかわらず裁判所に

納める費用が二千元で済む。

③ 弁護士の役割

弁護士は、被害者の代理人として、加害者の責任や損害額を主張立証する活動を行います。

弁護士が被害者を支援する仕組み

被害者は、犯罪被害に遭って様々な困難を抱えています。

しかし、弁護士とともに被害者が上述の種々の活動に関与することによって、徐々に困難を回復してきます。

刑事事件の終了とともに弁護士との関わりも終了しますが、最後に被害者が言うのは、「犯罪被害に向き合って、被害者としてできることをやれた。これで前を向いて歩いていきます。」ということですが、すべての被害者というわけではありませんが、多くの被害者の表情は吹っ切れたように柔和になり、そのような言葉を伝えてくれます。

被害者支援の終了時に、被害者から、このような言葉を聴くことができるのは、弁護士としてのやりがいです。

畔柳秀勝（H4筑大人間、弁護士）

被害者支援の件で、ご相談がありましたら左記へご連絡ください。

〒231-0011 横浜市中区太田町4丁目55番地

横浜ベイサイド法律事務所

☎ 045-226-5454

e-mail kuroyanagi@yokohama-bayside.jp

「知の提供」

ウイルスと共に生きる

海洋植物プランクトンの巧妙な生存のしくみ

白岩 善博

今、なぜこの話題か？

茗溪会と筑波大学名誉教授の会の連携の下に「知の提供」の企画が始まりました。季刊誌「茗溪」（1104号・2020年正月）で紹介された講演課題例から今回のテーマを取り上げました。

この2年間、人類は新型コロナウイルスに翻弄され続けてきました。加えて、ヒトや鳥インフルエンザウイルス感染などにも頻繁に襲われています。一方で、ウイルスを活用する技術を開発して生活に役立てていきます。まさに、ウイルスが諸刃の剣であることを実感しつつ、日々の生活を成り立たせています。

私は植物代謝生理学が専門で、藻類の光合成のメカニズムや細胞内の物質代謝を研究してきました。そのため、現在猛威を振るっているウイルス感染症については全くの専門外です。ところが、私自身が長年研究材料としてきた植物プランクトンの円石藻（コリソフォア）にはコリソウイルスという特定のウイルスの感染が知られています。そして、長い進化の過程で藻類とウイルスの間で遺伝子の移動も行われ現在に至っています。この機会に普段触れることのない世界に皆さんを誘い、「知の窓口」を僅かでも広げること

に役立てば幸いです。

海洋植物プランクトンとウイルス

海の物質生産を担い、一次生産者として海洋生態系の基盤をなす藻類は広く世界中に分布しています。中でも単細胞性の植物プランクトン（微細藻類）は海洋表層で頻繁に大増殖を起こしており、その様子を人工衛星による観測画像としてインターネットで見ることが出来ます。それらの大増殖による膨大な生物量・有機物生産は、海洋生態系、漁業、気候に多大な影響を及ぼしています。しかし、それらの大増殖は細菌やウイルスによって死滅に追い込まれ、まさに、海のウイルスパンデミック現象によってその終焉を迎えます。

このような世界的規模の大増殖現象は「レッドタイド・赤潮」や「ホワイトウォーター・白潮」と呼ばれています。日本近海でも瀬戸内海、大阪湾、相模湾、玄界灘、三陸沖や遠州灘で古くからよく見られています。しかしながら、その大増殖の発生原因や衰退・消失のメカニズムについてはまだ十分解明されていませんが、消失原因の一つとして細菌やウイルスによる細胞破壊が関わっていることが示されています。

現代の海で白潮を形成する海洋植物プランクトンは、ハプト藻類円石藻（代表種はエミリアニア・ハックスレイ）です。円石藻は2億年ほど前にこの世に誕生し、約7千万年前の中生代白亜紀に大繁栄しました。細胞表面に石灰質の殻をもつため、その死骸が海底に蓄積し生物由来の石灰岩を形成したこ

とがわかっていきます。その石灰岩が隆起したのがイギリス・ドーバー海峡の白い崖（ホワイトクリフ）です。白亜紀は温暖な気候で、海洋地殻の形成、黒色頁岩（ブラックスエール）、オイル生産が極端に増大した時代としても知られています。また、現在の数倍程あった大気中の二酸化炭素濃度が減少に転じたことも知られており、その一因は光合成作用による膨大な二酸化炭素固定によるものと考えられます。

エミリアニアがもつ特徴的な脂質分子

円石藻エミリアニアは炭素数37と38を主とする直鎖上の脂質（長鎖不飽和ケトンでアルケノンと通称されている）を主要な貯蔵脂質として合成し細胞内に蓄積します。この脂質は他の藻類では見られない特定の円石藻分類群でのみ合成される特徴的な分子で、それらの分類群を特徴づける分子マーカーとなっています。加えて、アルケノン分子の炭素二重結合の数の変化が、合成された時点で細胞が生育していた温度と見事な相関関係を示します。すなわち、アルケノンは「分子温度計」としての性質を持つことになりました。実は、過去に蓄積した海底堆積物中に保存されてきたこの分子温度計を使って、過去30万年程の海洋の表面温度（円石藻の生育深度は200メートルまで）の復元が地球科学者によって盛んに行われています。

アルケノン分子の炭素二重結合はトランス型でその数の変化は分子の長さに影響し、分子自体としては融点が変わります。

化します。私の研究室では、二重結合を2個もつ炭素数37のアルケノン分子（37:2と表す）に二重結合を追加し、3個をもつ分子（37:3）に転換する機能を持つ酵素アルケノンデサチュラーゼの遺伝子を発見しました。さらに、その遺伝子が温度低下にともなって発現し、酵素を合成し二重結合付加（炭素-炭素結合の不飽和化）の機能を發揮することを証明しました。

このアルケノン分子はバイオ燃料として利用できることが日米の研究者によって報告されています。太古において原油や天然ガスの起源となった藻類が、現代において再びカーボンニュートラルを実現するオイル原料として活用されることが期待されます。

藻類とウイルス間の脂質合成遺伝子の共有

エミリアニアには種特異的なエミリアニアウイルス（EhV86）の存在が知られています。宿主エミリアニアのゲノムは2本鎖DNAで38,544種類の蛋白質をコードする遺伝子を有しています。一方、EhV86は2本鎖DNAのゲノム上に42種類の蛋白質をコードする遺伝子を有しています。それら双方のゲノムを解析した結果、宿主であるエミリアニアが持っているスフィンゴ脂質を合成する遺伝子8個のうち7個がEhVにも存在していました。そして、系統解析の結果から、エミリアニアからEhVへそれらの遺伝子が水平伝播という現象でウイルスのゲノムに転移されたことが示唆されています。

茗溪創基150年 記念基金

◎寄付申込額 18,188,606円
◎寄付申込者 943名 4団体
・平均寄付額 19,186円
(2021/12/13現在)

各県の寄付入金者数
2021/12/13 現在

北海道・東北	北海道	13
	青森	3
	岩手	10
	秋田	11
	宮城	8
	山形	10
関東甲信越	福島	14
	茨城	113
	栃木	14
	群馬	15
	埼玉	66
	千葉	56
	東京	189
	神奈川	131
	山梨	12
	長野	22
北陸・東海	新潟	13
	富山	12
	石川	6
	福井	5
	岐阜	6
	静岡	27
近畿	三重	5
	愛知	39
	滋賀	2
	京都	7
	大阪	20
	兵庫	21
中国・四国	奈良	6
	和歌山	2
	岡山	2
	広島	6
	鳥取	5
	島根	4
	山口	4
	香川	9
	徳島	7
	愛媛	7
九州・沖縄	高知	3
	福岡	10
	佐賀	3
	長崎	4
	熊本	8
	大分	2
	宮崎	3
	鹿児島	4
	沖縄	4
合計		943

茗溪創基一五〇年記念の寄付募集を始めてから二年を経て、今年は「茗溪創基一五〇年」を迎えることとなります。
平成最後の定時総会以来、創基一五〇年事業が展開されてきましたが、新型コロナウイルスの蔓延下で、十全の成果を

挙げられずにいます。各地域におかれましても、総会や懇親会が二年連続で開催不能に追い込まれた組織も多くあると聞き及んでいます。
茗溪創基一五〇年記念事業として、「茗溪・筑波ファンド」を立ち上げましたが、時宜を得た事業となりました。と申しますのは、「コロナ禍以後の世界に打って出て新たな地平を切り拓く」、そういう同窓や学生に、思いきった支援を提供する。そういう意図を持つ基金だからです。
コロナ以後の時代に必要な基金です。ぜひ実現させたい事業ですが、目標額には程遠い状況といえます。
「茗溪創基一五〇年」の年です。今年こそ、趣旨賛同の上、声を掛け合って、寄付をしていただきたく存じます。

寄付募集以来、多くいただくお問合せとして、「いま、私の寄付はいくらほどになつてゐるか教えてほしい」「寄付を振り込んだのだけれど、受け取ってありますか」「四万円以上の寄付はできないのか」これが代表的なご質問です。これらご質問の中には、明らかに事務局側の配慮不足がありました。反省です。
先に紹介させていただいたご質問は、事務局の配慮不足も原因かと思ひます。

また、高額のご寄附（四万円以上）を戴いた方につきましては、御芳名を茗溪会館五階エントランス板壁にコーナを設置し、永年掲示させていただきます。

▼寄付の募集期間は？

茗溪創基百五十年目の年度中です。

▼寄付は一回きりですか？

何回でもできます。また、いつからでも申し込みいただけます。事務局は、ご寄付の名寄せ台帳を作成し管理しておりますので、複数回のご寄付でも、毎回のご寄付が一定額でなくても、累積額として登録されますので、ご安心



〇〇〇〇〇様

此度は茗溪創基150年記念に際し、
貴重なご寄附を戴き感謝申し上げます。
茗溪会理事長 江田昌佑
令和3（2021）年5月24日

醸金内訳

- ・金〇〇〇〇〇円（2020/6/14）
- ・金〇〇〇〇〇円（2020/12/8）
- ・金〇〇〇〇〇円（2021/3/14）
- ・金〇〇〇〇〇円（2021/5/31）

そこで、新たに左のような領収書（感謝状を兼ねて）を、ご寄付いただいた方々に年度末に送付させていただきます。

下さい。

▼申込み用紙を紛失したのですが…

ご請求いただければ、送付させていただきます。毎号の季刊誌送付時に申込み用紙を同封させていただいていきます。

ご利用ください。また「茗溪会ホームページ」からダウンロードできます。

▼法人からの寄付はできますか？

もちろんできます。会社名でも部署名でも、グループでもかまいません。また個人事業につきましても事業名等でご寄附いただければと思います。

▼申込み手続きと寄付支払いの関連は？

お支払い方法に、現金渡し、振込み、引落し、払込み、カード払いがありますが、事故回避の観点から、ゆうちょ銀行と銀行口座への振込み方法を採用しています。それでも、氏名漏れや姓だけのものがあり、寄付者の特定が困難となります。このような事故を回避すべく、事前に申込用紙をいただいております。趣旨ご理解の上、申込用紙には、氏名、住所、電話、メールアドレスを必ずご記入願います。

▼「茗溪創基150年記念基金」と「茗溪・筑波ファンド」の違いや関係は？

「茗溪創基150年記念基金（以下「記念基金」と略）は、茗溪創基150年記念事業（以下「記念事業」と略）全体の資金とお考え下さい。季刊誌上で特集していますように、記念事業は占春園再生事業などの先行実施を含め多岐に及んでいます。記念基金の目標額は一億円です。

「茗溪・筑波ファンド」について

○趣旨

東京高等師範学校の創成期において、嘉納治五郎先生は23年の永きに亘り高等師範学校の校長として、日本の教育者のあるべき姿と世界との結びつきの大切さを示されました。そしてこの度、茗溪会は、創基150年という記念すべき時を迎えるに当り、先生の矜持ともいえる「精力善用」「自他共栄」の精神の一端を担うことを目指し、基金を設立するものです。

○内容

- ① 基金の原資は、茗溪創基150年記念寄付金の一部とします。
- ② 基金の単年度額を約五〇〇万円とします。
- ③ 基金の基本姿勢を「新たな挑戦への助成」とし、対象を少数に絞り込み、手厚い支援を展開します。
- ④ 申請者は、スポーツ、学業、社会貢献などの領域で挑戦する茗溪会員（学生、同窓）とします。

寄付——むかし物語

同窓会である。当然のことではあるが、茗溪一五〇年の歴史の中でも、幾多の寄付活動があった。一筋縄ではいかない。「人知れぬ苦闘」が累々と続く歴史でもあった。

四〇年前である。茗溪会百周年記念事業の話である。五億円を目標とした。

われわれの「茗溪・筑波ファンド」は原資を五千万円としているから、十倍である。

底知れぬエネルギーと凄みを感じる。

「説得だけで、人様から寄付を仰ぐということは、何とも気の重い馴染めない仕事であった」と、当時の述懐にあるように、寄付活動を進める側は、気の重いことである。

大義はある。大義はあるが、人様を前にすると脚がすくみ、大義がしほむ。

とくに、新型コロナウイルス禍により萎縮した世間を前にすると、気分は重い。当時も学園紛争後の索漠とした時代ではあった。その中で、五億円を目標とする寄付募集が展開された。『茗溪百五十年誌』（仮称）の原稿がある。覗いてみる。

●学都資金財団の設立

「東京教育大学後援会」が設立されたのは、紛争が泥沼化する只中であつた。

昭和四十二年、理事会（12/20）で、事態の根本的解決と母校の将来的発展を見通し、昭和四十三年五月に発足、目標額を二千万円とし、会員から募金を集めることとした。

二年後、任意団体から公的団体にすべく、募金目標を五千万円に増額して新たに趣意書を作り、代議員会総会（5/21）で満場一致の賛成を得た。「財団法人筑波新大学後援会」に名称を変更しようとしたが、未存の大学を後援することになるので不適切であると、文部省から指摘を受けた。

その後、「財団法人筑波新大学資金財

団」と名称を改め、東京都教育委員会經由の上、一月二七日付け文部大臣名をもって設立許可となった。こうして、設立日を昭和四十六年二月一日として、二月八日登記を完了した。資金財団の名称で法人が認められたのは、「オリンピック資金財団」だけであつた。

国立大学法人化（平成十六年）以前の話である。国立大学は、国立学校特別会計の制度上、公費支出には厳格な規制があり、大学の研究、教育活動に即した弾力的な資金運用が難しい実情を抱えていた。東大、京大、一橋大、東工大など有力な国立大学は、この種の研究活動を支援する財団法人を持っていた。東大は、筑波移転に伴う資金的需要が高まると予想されていたから、後援会の設置によって、公費以外に必要な教育活動の資金を得られることは極めて魅力的なことといえた。

昭和四十六年十一月、募金趣意書が『茗溪』（910号）誌上に掲載された。後援会の立上げから財団法人発足に至った経緯が述べられ、会員のみならず「広く関係方面からも募金」というもので、募金の最終目標額を五億円としていることが示された。

続いて、その使途として、以下の二項目に充てるとされた。

1. 筑波新大学宿泊福祉センター（仮称）の建設及び管理運営
2. 研究・出版・外国旅費・学生の文化、

体育活動・外国人学者招聘等の援助

筑波新大学宿泊福祉センター（仮称）の対象目的が具体的に例示されていた。

- ① 学校其の他再教育を受けるための来学者の宿泊及び会議場
- ② 外国からの学者・研究者の宿泊及び会議場
- ③ 国内留学性及び研修生の宿泊及び会議場
- ④ 大学職員及び関係者・卒業生等の宿泊施設
- ⑤ 右の宿泊者・利用者の厚生施設



2020年夏(8/29)、筑波研修センターの正面玄関前に立つ室岡所長。この年の初夏に、筑波研修センターは閉館した。

また、大蔵省に申請中の免税措置の許可が下り次第、本格的な募金活動を展開するが、「まず何よりも我々会員の力で五千万円は準備したいものと念願している次第」とし、「この募金は《筑波新大学の使命達成を助成する》こととなるばかりでなく、ひいては、わが国学術の振興、人材の養成に寄与することとなり、今回

の募金の意義を一段と意義あらしめるものと存じます。」と、改めて募金の意義を強調して結んでいる。

その後、昭和四十八年、『茗溪』（918号）誌上に、指定寄附認可の報告とともに、第24回（昭和四十八年五月まで）分の寄付金額が報告されていた。

会員拠出金の部で気づくのは、個人寄付の他に職場単位の寄付があることで、第24回報告分には、博報堂茗溪会一同や千葉県立京葉工業高校茗溪会の寄付が紹介されていた。

こうして、指定寄附の認可が下りたことで、法人に対する本格的な募金活動が始まった。財団事務局作成の「募金実績明細書」によると、金融界、貿易・商事界、産業界等から寄せられた二億八千五百万円、会員から四千百万円、併せて、三億二千六百万円。この外に、自転車振興会からの補助金一億三千八百三十三万円を加えると、総計四億三千三百万円となる。「調達資金はこれでメ切」と、大内脩二郎（S4文三・7大英）は、安堵とともに、法人募金調達の苦労を振り返る。

●法人への募金活動

法人募金の調達は、「説得だけで、人様から寄付を仰ぐということは、何とも気の重い馴染めない仕事であった」と、大内は述懐する。

業財界で、筑波新大学の使命を理解してくれる人物が、そう容易に、見当たるものではない。

そこで、経団連事務総長に会い、「募金

活動につき、特別のお手引き」を懇願し、経団連作成の依頼先並びに見積もり依頼金額併記の一覧表を頂戴している。その折に、「一般常識として」と前置きの後、「寄付金を頼む側と依頼先との間にどういう結びつきがあるのか、また、筑波新大学を間接に応援することによって、いかなるメリットが依頼先に生ずるのか」、この点を予め念頭に入れておくことと、教示を受けていた。

依頼先は以下のように分類された。

- (A) 金融界 東京銀行協会（都銀）など八協会
- (B) 貿易・商事界 日本貿易会、日本百貨店協会
- (C) 産業界 日本鉄鋼連盟、電気事業連合会、各軽工業会・協会等40種類
 - *鉄鋼連盟大手五社（新日鉄、川崎製鉄、日本鋼管、住友金属工業、神戸製鉄所）の他二十数社
 - *電気事業連合会は、九社（東京、中部、近畿、中国、北陸、東北、北海道、四国、九州）
- (D) 個人企業

東京銀行協会、日本鉄鋼連盟、電気事業連合会を「三本柱」に見立てて優先的に交渉し実績にすることが効果的であると、示唆も受けた。

その後、五千万円の寄付引き請けをした都銀が「募金成約第一号」となった。

日本鉄鋼連盟大手五社は、毎月総務担当者の寄付金連絡会議が行われていた。人脈を頼りに、四千万円の回答を得た。

期待は五千万円であった。柴田理事長は「八分目でよい」と労ってくれた。「募金成約第二号」である。

電気事業連合会は三千万円で「募金成約第三号」となるが、成約に至る挿話が興味深い。紹介する。

当時電事連の会長さんは中部電力の会長加藤乙三郎氏であり、加藤さんは、かねて、茶道に造詣が深いことを承知していた。案の定、わが財団の常務理事芳賀幸四郎宗匠とは、それこそ「お茶のみともだち」の仲であったので、御両所の直接会談により、電通連理事会の募金に関する意見とりまとめ方を、加藤会長さんをお願いすることができた。（『茗溪会百年史』）

こうして、「三本柱」の実績が、募金活動の構造的基盤となり、そこで得た「新大学のあり方、後援の使命と、資金の調達並びに募金活動に至る筋道」を、依頼先一軒一軒に対して繰り返されたのである。総計四億三千万円。「調達資金はこれでメ切」と言う大内の快哉と苦労が同時に伝わってくる。

●筑波研修センター

研修センター落成開所式は、昭和五一年夏、快晴の空の下で盛大に行われた。

以降、順調に運営され、平成十七年夏には、宿泊者百万人突破という嬉しい知らせが季刊誌『茗溪』に寄せられた。

百万人目は、香川から大学院受験で宿泊した女子学生であった。

筑波大学は今

永田学長がウズベキスタン政府より「ウズベキスタン共和国独立30周年勲章」を受章

12月5日、駐日ウズベキスタン共和国大使館にて、永田恭介学長は同国特命全権大使のムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ閣下より、ウズベキスタン共和国独立30周年勲章を授与されました。

今回の受章は、世界各地の人々にウズベキスタン大統領名義で授与され、日本国内では永田学長を含め7名でした。

受章理由として、ウズベキスタン共和国政府は旧ソ連からの独立30周年記念にあたり、日本国内において、永田学長及び筑波大学が同国と日本との関係を強化し、教育及び科学の分野における人的資源の開発を促進したことを大きな貢献として認めました。



永田学長とムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ特命全権大使

本学のプログラムが文部科学省「大学の世界展開力強化事業」アジア高等教育共同体(仮称)形成促進」に採択

この度、文部科学省「大学の世界展開力強化事業」アジア高等教育共同体(仮

称)形成促進」に、本学の「地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム」が採択されました。

本プログラムでは、華東師範大学(中国)、韓国教員大学校(韓国)、コンケン大学(タイ)、マレーシア工科大学(マレーシア)、バンドン工科大学(インドネシア)の5大学と連携し、大学院の学生が地球規模課題を選定して交流先大学を訪問し、訪問先の教員の指導のもとで実験・フィールドワーク・インタビュー等の研究方法によって探究して交流しあい、その知見を課題解決のための教育政策へつなげるための学際的・国際的協働の研究交流活動を推進する取組です。

複数分野に関連した地球規模課題に対応するため、本プログラムは教育学、環境学、国際マテリアルズイノベーションと複数分野の学位プログラムを軸に構成し、それぞれの分野に対応した交流プログラムA(教育学コア)、交流プログラムB(環境学コア)、交流プログラムC(物質・材料科学コア)の3つの交流プログラムを設定しています。

本プログラムを通じて、現実課題の解決を意識して学問融合的・国際的な協働をリードできる人材の育成を目指して参ります。

取組組織

- ・人間総合科学学術院
- ・人間総合科学研究群
- ・理工情報生命学術院
- ・数理物質科学研究群
- ・生命地球科学研究群

国際連携持続環境科学専攻

第47回筑波大学学園祭「雙峰祭」をオンラインで開催

11月6日〜7日、第47回筑波大学学園祭「雙峰祭」が、オンライン形式で開催され、11万人が公式ホームページを訪れました。コロナ禍により昨年は中止となっただけに、今回の開催にはさまざまな思いが込められました。

今年のテーマは「Next to Tsukuba」。つくばの「隣」にあつた日常への思慕と、雙峰祭がいつもと同じように楽しいものとなることへの期待を表しています。本学ならではの多様性に満ちた学術企画や、個性あふれる芸術祭展示サイト、公式キャラクター「そばたん」をモチーフにした委員会開催企画、関連グッズ販売企画など、サイト上には70以上の企画が並びました。

また本祭2日目には、無観客にて後夜祭が行われました。全参加企画の中から、投票によって一番人気を決める「雙峰祭グランプリ」の結果発表があり、一般企画部門では吹奏楽団の「吹団オンライン演奏会」が、ステージ企画部門では筑波大学アイドル研究会Bombsの「Bombs! オンライン学祭公演」が、それぞれ最優秀賞に選ばれました。また、2日間を振り返るダイジェスト動画も公開されました。この様子はインターネット上で配信され、3千人以上が視聴しました。

第8回日本美術展覧会(日展)で特選を受賞

10月29日から11月21日に国立新美術館

で開催された第8回日本美術展覧会(日展)第3科(彫刻)において、人間総合科学研究科(博士前期課程)芸術専攻2年の最上健さんと、芸術学学位プログラム(博士前期課程)研究生の町野紗恭さんの2名が特選を受賞しました。第3科では64点が入選し、さらに特に優秀と認められる作品8点に特選が与えられました。

日展は、明治40年から続く日本最大規模の総合美術展覧会で、前身の文展(文部省美術展覧会)を含めると、今回が114回目です。本学では過去に、芸術系の柴田良貴名誉教授と宮坂慎司助教が特選を受賞していますが、在学中での受賞はこれまで例がなく、また2人同時での受賞は快挙です。

受賞理由として、最上さんの作品《ヨルノムコウ》に対しては「人体を丁寧に観察し、素直に表現している。部分に捉われず全体のポーズの持つ美しい流れを大切に、肉体のやわらかな表現と量感が魅力的な作品である。」、また、町野さんの作品《場所》については「婦立像。両脚で立つ女性のわずかな体重移動が、心地よいムーブマンを生み出している。女性豊かな量で表現された優作である。女性が見つめる先の、穏やかな未来を信じていたい。」との選評が寄せられました。



町野紗恭さんの作品《場所》



最上健さんの作品《ヨルノムコウ》

茗溪・東西南北

第9回 東京茗溪会総会・ 話題提供・意見交換会

第9回東京茗溪会は、今回、オンラインだけでなく、対面とのハイブリッド形式で開催されました。新型コロナウイルスによる感染が落ち着いていることもあり、茗溪会館に会場された方は15名で、スクリーンでの視聴をもらいました。オンライン参加者は46名、総勢71名の近年稀にみる参加者数となりました。

第1部「総会」

本部事務局からZoomを使っての開催は、最初に高橋基之会長（自然学類53卒）の開会挨拶、そしてご来賓として、前筑波大学学生担当副学長で、現在は筑波大学教授で、茗溪会理事でもいらつしやる佐藤忍先生から大学の近況報告を交えたご祝辞をいただきました。新型コロナウイルス感染防止の対策をしながらの授業をはじめとした様々な工夫がなされ、学生宿舎でのクラスター発生はなかったとのことでした。オリパラでの活躍としては、大学院生の梶原悠未選手（体育専門学群元卒）の自転車トラック銀メダルと、大学院生の高橋利恵子選手（障害



科学類R1卒）のゴールボール銅メダルがあげられました。また、学生の努力で大学祭をリモートで開催できたそうです。箱根駅伝は予選会13位で残念でしたが、学連選抜で1名が走る予定です。ホットな研究としては、ゲノム編集技術でのGABA（γ-アミノ酪酸）が多いトマトの作出の報告がありました。

次に議事では、活動報告、決算が承認されましたが、昨年に引き続いて会費納入率の低さが議論されました。年々納入率が低くなっており（昨年5.4%、今年3.8

%）、会の運営ができなくなるという危機感があり、あらためて会費納入のお願いをする次第です。続いて、次年度計画案や予算案が承認されましたが、教員組織の再編成に対し質問が出て、教員数が減っているなか、前向きに検討していく方針が説明されました。今後も皆様のご意見やご提案をお願いいたします。

第2部「話題提供」

総合テーマとしては「茗溪創基150年記念 未来の豊かな人生・生活に向けた人的交流ネットワーク・絆づくりを考える」として、副題は「人生100年時代のキャリア・トランジションを踏まえて」ということで、3人の方から幅広く話題を提供していただきました。

【話題提供1】 藤江昭彦さん

藤江昭彦さんは農林学類（現在の生物資源学類）58卒で修士修了後、薬品会社に勤務。現在は日本医療研究開発機構の主幹創業コーディネーターであります。薬品会社では、微生物探索をして創業につながる仕事をしており、天然物由来の薬品の開発に携わりました。特に薬剤耐性菌対策に貢献されました。現在は、大学や研究所と薬品会社をつなげる支援の仕事をしております。特に最近、コロナワクチンの開発を支援しており、そこでの課題解決に取り組んでいるとのこと。単独の大学や企業ではなしえないことをグローバルな視点でお仕事をして

いるという熱意や使命を感じさせるお話でした。

【話題提供2】 笹のぶえ先生

笹のぶえ先生は比較文化学類56卒で、都立高校の教諭を経て学校長を経験し、現在は全国普通科高等学校校長会事務局長であります。

大きく次の4つの話題を提供していただきました。

①高等学校で新しい学習指導要領による教育が令和4年度から始まる。そこでは、新しい時代に必要となる資質・能力、主体的・対話的で深い学び、探究型学習の重視が要点となります。

②中教審答申 令和の日本型学校教育の構築を目指す。答申の内容として、ウイズコロナ・ポストコロナ、高校の特色化・魅力化、普通科改革について説明がされました。

③大学入試のあり方に関する検討会議の会議では、記述式問題の出題、総合的な英語力の育成・評価、地理的・経済的事情・障害のある受験生への合理的配慮、ウイズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜について提言がなされたとの説明がありました。

④教員の働き方改革

そこでは、自らの人間性や創造性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うこと、学校および教師が担う業務の明確化・適正化、1年単位の変形労働時間制の導入、教員の勤務実態調査といった項目について説明があり

ました。
笹先生は、さすが全国の校長のまとめ役とあって理路整然と説明していただきました。

【話題提供3】佐藤順一さん

佐藤順一さんは社会学類56卒で、(株)カクヤスグループ代表取締役社長であります。



カクヤスといえば、酒類販売の成長企業として、多くの人が知っていると思います。そして、今のコロナ禍で、配達売上が極端に減少したことで知られていることと思います。しかしそんな中でも、大きく減らした業務用から家庭用に配達をシフトするなど、知恵と工夫を凝らし、赤字を減らして頑張っておられる姿をお聞きました。最近、新型コロナウイルス感染者数は減少しておりますが、売り上げは、このコロナ禍前には戻らないと考えておられます。そして他社との競争においては、商品での差別化の他、品ぞろえ、価格、付加価値での差別化を考えたおられ、まさにウィズコロナ・ポストコロナの経営をいち早く考えて次の打つ手を講じているとのことでした。その根本には、「お客様の都合に合わせるビジネスモデルの構築」という考えがあります。家庭用のニーズがまだまだありますので、少量で多様化の商品に対応するべく自社配送、小型倉庫を充実させています。そして今後は、自社配送の集中する夕方から夜の酒類販売だけでなく、それより前の配送の空いている時間帯に、ペット用品や冷凍食品、サプリメントなどの配達、配送を考えているとのことでした。そして会社のキャッチフレーズは「これからも よいひとときを お届けします」ということで締めくくられました。

第3部「意見交換会」

第2部の話題提供を受けて、高橋会長

による進行のもと、参加者から様々な意見や感想が述べられました。

まずは、大学院生で大学の職員でもある古畑翼(比較文化学類R1卒)さんから、コロナ禍の影響として、学生に次々と送られる連絡事項が大量にあり、大学からの重要な連絡事項がそのたくさん情報の中に埋もれたり、取捨選択できなくなったりして、学生が開くことなく十分に届いていないという問題を指摘していました。

そして多くの方から、今回の話題提供は、いわば人生の成功体験、課題解決体験の話が聞けて、有意義であったとの感想がありました。教育の根幹を支えてきたのは若漢であるといった力強い言葉をいただきました。時代は常に動いています。これからもウィズコロナ・ポストコロナの時代、さらなる新たな課題が生まれてくる中で、生きていかねばなりません。マイナズ面ばかりではありません。ITの力で距離が縮まっています。ピンチはチャンスであり、キャリアの転機、発想の転機になるかも知れません。

事務局からは、重ねて会費納入、会員への勧誘、住所変更時の連絡のお願いがなされました。



そして最後は、若漢・筑波のアイデンティティである「宣揚歌・桐の葉」をみんなで歌いました。また、今回の集まりに関するアンケートのお願いをしました。今回は、参加者が例年より多く、今後今回の方式を踏まえて、みなさんの参加しやすい総会等の運営方法を確認することができたと思っております。

【東京茗溪会副会長 渡邊 悟
(農林学類56卒・博農62卒)】



板持氏のお嬢様から送られてきたアルバムを開くと、「駒場の残影」と表題があった。

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？



季刊誌『茗溪』秋号（1110号）に、

山岸高旺氏（S22理三）から届けられた写真を掲載した。その内の一枚である。

「東京高師 理三卒業生と先生方」で、「理三の地学、遺伝学、動物学、植物学を担当して下さった先生方と学生の一部」と説明書きがされていた。

秋号の刊行直後に、連絡がきた。

濱 健夫氏（筑波大学名誉教授、獨協大学特任教授）からである。御父君が写っている。前列左端が山岸氏、そして前列右端が御父君だという。幼い記憶に、御父君を訪ねて来られた山岸氏の姿があった。ぜひとも山岸氏と連絡を取りたいということであった。

嬉しい知らせであった

追悼のつどいの日に、お電話を頂いた。板持頼好氏（S20農教）のお嬢様からであった。「父は平成九年に亡くなりまして、古いアルバムが遺品としてあり、処置に困っています。差し支えなければ送付させてほしい」というご相談であった。お引き受けした。

先日は突然お電話を差し上げて失礼しました。父のアルバムは説明がついていますが、ビニール袋の写真にはないものもあります。

手元においていても、いずれ無くなるという可能性もあります。

なにかの資料になれば幸いです。父と東京での生活を話した事もなく、なぜ父のアルバムに各種の写真が残っているのか、とても不思議な気がします。アルバム等の返却は不要です。お手数をかけますが、よろしく願います。

広島県福山市からの届け物である。お嬢様に、お礼方々、取材めいたことをしてみた。

板持氏は島根県安来市の梨農家のお出で、農教卒業後、松江農林高校の教諭が初任であった。そこで結婚した。

その後、広島三次市の塩町高校に転任した。塩町高校は大正九年創立の高等実業補習学校を前身とし、創立百年を迎えた。校名は幾度か変わり、現在は県立三次青陵高校（単位制総合学科）という。校歌に校名は登場しない。

部活動に「ソフトテニス部」がある。板持氏は学生時代に軟式テニス部に所属しており、高校でも顧問をしていたようである。

その後、荏原実業高校の教頭を経て、広島県立油木高等学校校長を務め上げ、退職している。油木高校の前身は神石郡立神石農学校であり、平成初期までは農業経営科が設置されていた。

「東京の話は東京大空襲のことしかしませんでした」と、お嬢様は思い出したように電話の向こうから伝えてきた。



駒場中学校の雪景色

井之頭線の駒場東大前駅を下りると、この風景が目に入る。この学舎は、明治十一年、「農事修学場」が駒場野に校舎を新築移転し「駒場農学校」に改称したところから始まる。その後、曲折を経て、昭和十二年に、東京農業教育専門学校となった。

板持氏のアルバムにその校名を刺繍した校旗がある。



戦後建てられた東教大農学部校舎は鉄筋コンクリート棟であったが、それ以前の学舎である。この学舎は大空襲で焼失した。



学舎

(板持氏直筆の表題)

昭和二十四年に、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、東京高等師範学校、そして東京文理科大学が包括されて、東京教育大学となった。

学校の統合と足並みを揃える形で、各校の同窓会(農教の「駒場会」、体專の「翔陽会」、文理大・高師の「茗溪会」)が大団結して新たに「茗溪会」を創立した。昭和三十四年である。



右は八ヶ岳演習(板持氏所蔵)
上は北富士演習(山岸氏所蔵)
同じ昭和十九年のものと思われる。
皆、銃を抱えたり、手に携えている。

山岸氏が北富士演習場で軍事訓練をした写真は、昭和十九年であった。終戦の一年ほど前の夏、富士山が背景に写っていた。

板持氏の「軍事訓練」の写真にも、富士山を背景とした集合写真がある。

もう一枚の写真に、板持氏は「農兵隊」と記している。八ヶ岳山麓での「幹部訓練」とある。終戦間近に、食糧増産隊が結成された。徴兵による農家の人手不足を補うために軍隊式の全国的な組織が設立された。農村の少年達からなり、「少年農兵隊」とも呼ばれていた。農教の学生が少年農兵隊を指揮する、その訓練なのだろうと推測できる。



勤労奉仕にも駆り出されたようである。勤労奉仕なのか農業実習なのか区別のない写真が多い。農家の人手不足を補うために、神奈川県山北や足柄上郡の山村で農作業をする姿もあった。



「稲架」とある。稲の収穫を終え、稲を刈り取ったあと、脱穀までの間、乾燥させる作業をいう。竹や木を組んで刈った稲を掛けて乾かし、カビなどを防ぐための重要な作業といえる。「はさ」とか「はざ」といい、「稲を挟む」の意味らしい。



写真の人物各人の氏名を書き込んである。裏面に、撮影に至る情景が克明に記されていた。

お届け頂いたアルバムを開くと、整然と分類され、写真の裏には一枚ずつ丁寧にコメントが記されていた。



学舎を背景にご父君（右端）がいる。「植物病理専攻」の同窓達のような。板持氏は昭和十七年に入學し、同二十年に卒業しているから、前回の山岸氏よりは二歳年長のような。

思いのこもる資料である。
茗溪創基一五〇年、
壮大な流れの一滴に過ぎない。
だからこそ尊い。



八ヶ岳頂上にて

写真が貴重な時代であったことは確かである。山岸氏のハトロ紙に包み上げる行為も、板持氏のように丁寧にコメントを綴る行為も、几帳面というだけでは済まされない。なにか特別の思いが込められている気がする。

思い出の品々の寄贈（お願い） 茗溪創基150年記念事業

この度、会員の皆様の「茗溪創基150年記念事業」への参加の一つのあり方として、皆様から茗溪の流れに係る「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について

- ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
- ・ご提供頂く場合、品々に「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。

2. 募集期間

- ・茗溪創基150年の年度（2022年度）の終わりまでとさせていただきます。

3. 送り先

- ・画像ファイルの場合は、メールにて（peer@meikei.or.jp）までお送りください。
- ・アルバムなど思い出の品々につきましては、大塚事務所までご送付ください。

4. ご寄贈いただいた「思い出の品々」の活用

- ・ご提供いただいたご寄贈の品々につきましては、『茗溪』Peer Gardenの中で、紹介させていただきます。また、その一部は、『茗溪創基150年記念誌』（仮称）の資料として活用させていただきます場合もございます。
- ・その他の寄贈につきましては、茗溪会活動の中で広く活用させていただきます。

◆ S40卒物理学科同期生(クラス担任：宮本米二教授)の集い

毎年5月に、関東圏から大多数として長野、静岡、香川、沖縄の各県から参加して、毎回28名のクラスの半数ぐらいのメンバーが顔を合わせ、旧交を温め、特に各人持ち味を発揮して、余暇を有益に費やしている話でにぎわう。クラスの3分の1ずつが、教職(高校)、大学&研究機関、そして民間企業で、それぞれ独自の経歴を積み重ねてきました。

COVID-19のため2020、21年の例会が開かれず、2019年5月16日の会合が最近で、その折の出席者の写真を添付します。(代表 篠)



「桐の葉のつどい」の掲載について

以下の要領で写真と原稿をお寄せください。

- (写真) フィルムカメラ、デジタルカメラのいずれで撮影したもので構いません。紙焼きでも、デジタルカメラの場合はデータをメールでお寄せいただいても構いません。
- (文章) グループの名称、お集まりになった「とき」「ところ」を別項にして、必ずお書き下さい。会の模様を紹介する文章は31文字×5行以内でお願い致します。

著 書 紹 介

『教師の自己評価』で英語授業は変わる』

著 者…醍醐路子(50年教大言)他

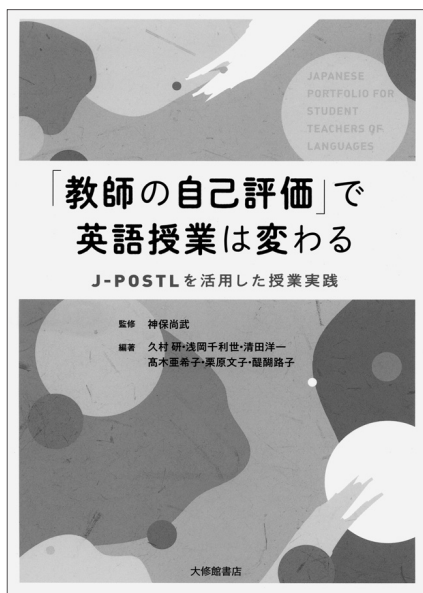
本の大きさ…A5判 235ページ 上製

発 行 所…大修館書店

発行年月日…2020年3月20日

本書は、英語教師の資質・能力の育成と生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に繋がるツールであるJ-POSTL*(ヨーロッパ言語共通参照枠―CEFR―に由来)を軸とした授業実践の報告である。所収された実践範囲は教育困難校から進学校まで及び、内容(抜粋)は従来の読解中心授業から「技能統合型の授業」への転換(第1章)、協同学習・相互評価で自律型学習者に変容する生徒の姿(第2章)、日本の伝統文化を通して育む異文化間能力(第4章)など、授業が対話的なものになり、生徒の主体性が育ちゆく実践が並ぶ。教育委員会主催の研修においては、英語科以外の科目に応用しても有益である(第5章)ことが示され、J-POSTLが英語教育や通常の教室の枠すらも越えた深い「教育理論」に立脚するものであることが見てとれる。著者諸兄姉のご高覧・ご批評を願うものである。

*J-POSTL(『言語教師のポートフォリオ』Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages. 大学英語教育学会[JACET]教育問題研究会編、2014)



茗溪学園だより

高校ラグビー10年連続全国大会出場

11月19日全国高校ラグビー茨城県大会決勝戦で、本校ラグビー部は日立一高と対戦、102対0で勝利して10大会連続27回目の花園出場を果たしました。

昨年来、コロナウィルス感染拡大期では十分な活動ができないこともありましたが、選手達は明るく元気に前向きに頑張ってきていました。初戦の対戦相手も決まり、ますます気持ちがいよいよ盛り上がっているようです。全国大会では1試合でも多く試合ができるよう大会直前の練習に力が入っています。活躍を期待したいと思っています。



水戸市ツインフィールドにて

海外提携校11校に

10月7日(木)東京都四谷のインドネシア大使館にて、SMAデイルガンタラ高校(インドネシア・ジャカルタ)と茗溪学園の提携調印式が行われました。

調印式では、トゥリ・ブルナジャヤインドネシア共和国公使、ユスリ・ワルデアノト教育文化担当官の立ち合いのもと提携書に署名・調印を致しました。

ヘリ・アクマデイ駐日インドネシア共和国大使からは、「今回の両校提携に大変期待しており、インドネシア共和国としても全面的にサポート致します」とお言葉を頂きました。

この提携により海外提携校が11校目となりました。同校は、インドネシア空軍とアルダヤガルニ財団によって設立されたインドネシアでもトップレベルの男女共学の私立高校であり、国際バカロレア認定校となっています。「2050年アジアの時代」が到来するといわれる中、茗溪学園とアジアの名門校との連携・交流は、今後さらに拡大してまいります。

新トレーニング棟建設進む3月完成

新トレーニング棟の建設が進んでいます。コンセプトは、皆が使えるトレーニング場です。トレーニングのために、そして、健康の



柱や梁の構造部分が組み上がり、木造建築の文化である棟上げ式を生徒を集めて行った。



提携書にサインする宮崎淳校長

ためにも活用できる場にと考えています。木造構造で、温かい雰囲気トレーニング場となります。他に部室が8室できます。各部の活動環境も改善されます。

部活動報告

◎高校ラグビー部：第101回全国大会出場・東大阪市花園ラグビー場12月末～

◎中学ラグビー部：第41回東日本大会出場・結果第3位、第27回全国ジュニアラグビー大会出場・茨城選抜(茗溪学園主体チーム)12月末東京夢の島競技場

◎高校バドミントン部：県新人大会・男子団体・シングルス・ダブルス優勝

◎ダンス部：第74回全国中学校ダンスコンクール(日本女子体育大学主催)・高校ソロ・デュエット部門優勝

つくば市との協働によるキャリア教育

令和3年の12月6日(月)、つくば市と協働し、学生の起業マインド醸成を目的とした起業セミナーを実施しました。本セミナーは、市の「つくば市スタートアップ戦略」の施策と本校の「探究の授業」

の一環として、中学生との直接対話を行う形式で行いました。生徒が起業・経営について新たな視座を得ただけでなく、科学技術についての興味関心を高める講演会になったと思います。つくば市との連携は、今後もさらに強化していきます。

茗溪学園中学校高等学校で第1回中学生向け起業セミナーを実施します



つくば市は、スタートアップ戦略の一環として、茗溪学園中学校高等学校の「探究の授業」において、市内スタートアップの経営者を講師に迎え、起業セミナーを実施します。これは、中学生と講師が直接対話して起業マインドの醸成を図るものです。

【日時】令和3年12月6日(月) 5、6限目(13:45～15:45)

【場所】茗溪学園中学校高等学校(つくば市稲荷前1-1) アオラホール

【対象】茗溪学園中学1年生 約160名

【登壇者】株式会社ワープスペース 代表取締役CEO 常間地 悟 氏
株式会社amulapo 代表取締役 田中 克明 氏
※オンライン登壇になります。

【取材申込】茗溪学園での取材が可能です。取材を希望される場合は、前日までに「氏名、所属、連絡先」を以下の取材申込先へご連絡ください。

【その他】第2回中学生向け起業セミナーは、令和4年1月17日(月)に実施予定です。



■株式会社ワープスペース 代表取締役CEO 常間地 悟 氏
法学修士(国際投資法、国際仲裁)。筑波大学在学中に起業し、大学院で国際投資法を専門に研究をしながら、並行してこれまでに4社の立ち上げに携わる。主にITスタートアップ等の創業メンバー/役員として、経営戦略・ブランディング・法務・財務等を担当。宇宙のグローバルトップ通信キャリアを日本から生み出すことに全力で取り組んでいるほか、起業家の育成活動にも参画。



■株式会社amulapo 代表取締役 田中 克明 氏
宇宙ロボットの専門家、博士(工学)。宇宙開発のベンチャー企業にて月面探査車の開発にエンジニアとして携わりながら、xR、ロボット、AI等のICT技術で宇宙体験を創る(株)amulapoを設立し、宇宙を中心に科学技術の促進を目指す。早稲田大学招聘研究員、(一社)ELPISNEXの理事も務め、2050年の未来に向けた仕組みづくりを行う。

追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

丸山富三男	19理一	神奈川	R2.12.12	妻	丸山 智子	竹岡 悼	33教大地	福島	R3.10.30	妻	竹岡 芳枝
竹田 旦	22大国史	東京	R3.10. 4	長男	竹田 好明	田沼 睦	33教大日史	千葉	R3. 8.15	妻	田沼 恵子
小松原功男	24文三	栃木	R3. 1.17	長男	小松原孝久	遠藤織太郎	33教大農	新潟	R3.10.22	長男	遠藤 太郎
斎藤寛治郎	25大心	東京	R3. 1.28	長男	斎藤 博也	高橋 伍郎	35教大体	神奈川	R3. 6.14	妻	高橋 眞琴
丸山 健一	25文一	兵庫	R3. 9.20	長女	木村 洋子	藤森 喜雄	35教大地	長野	R3. 2.26	妻	藤森寿美子
小林 一敏	27理二	筑波大	R2.11. 6	妻	小林 倫子	河鍋 鷺	36専攻	東京	R2. 2.13	妻	河鍋 陽子
土岐 啓介	28大数	神奈川	R3. 7.10	義妹	辻 敦子	鈴木 厚	37教大特教	静岡	R3. 8.13	妻	鈴木 儼子
横山 稔	29教大地	岐阜	R3. 7.30	妻	横山須美子	高柳 一敏	37教大農経	愛知	R3. 8. 5	妻	高柳 繁子
田矢 一夫	30院修化	埼玉	R3.10.27	長男	田矢 壮広	持田 行雄	43院博倫	埼玉	R3. 5. 4	妻	持田津加代
長田 年子	30教大英	東京	R3. 2.26	長女	長田恵美里	斎藤 興雄	45院修英	東京	R2. 2.23	長男	斎藤 元誉
小峯 英夫	31教大健	東京	R2. 2. 8	妻	小峯 晴子	井本 嘉宣	45専攻	群馬	R3. 4.20	妻	井本かずよ
原口 宇平	33教大英	東京	R3. 7.19	妻	原口 敦子	能田 伸彦	46院博教	筑波大	R2.12. 3	妻	能田 恵美
野田茂登子	33教大英	神奈川	R2. 9.23	姪	野田 雅恵	飯干 伸一	57筑三社工	宮崎	R3. 5.10	妻	飯干 尚子
金子 六郎	33教大地	北海道	R1.12. 7	妻	金子 綏子						



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っています。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社／茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：取締役 常務執行役員安全管理本部長 岡本 俊一
〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>



安全に、快適に、正確に

大曽根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

☆お迎え料金無料

☆カード利用 OK!

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます

令和2年春・秋の叙勲

おめでとうございます(追記敬称略)

瑞宝小綬章

根岸 均 47教大応数

(秋 田)

瑞宝双光章

伊藤 碩士 40教大体

(秋 田)

令和3年秋の叙勲

おめでとうございます(敬称略)

瑞宝中綬章

佐藤 宣践 41教大体

(神 奈 川)

清澤 毅光 40教大数

(静 岡)

瑞宝小綬章

大西 武三 43教大体

(筑波大)

関合 信孝 42教大体

(青 森)

熊谷 隆益 48教大体

(秋 田)

阿部 英之 33教大数

(栃 木)

小林 惺 34教大体

(栃 木)

笹沼庄之助 34教大農

(栃 木)

富田 祥男 41教大東史

(群 馬)

三條 和男 32教大健

(東 京)

崎田 功 32教大数

(東 京)

西村宗一郎 41教大体

(神 奈 川)

瑞宝双光章

船木 賢咲 49教大武

(秋 田)

篠宮 博史 49教大応数

(新 潟)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広 報

「追悼のつどい」が2年ぶり開催される

昨年度はコロナ禍により中止となった、逝去された会員を偲ぶ「追悼のつどい」が、去る11月23日(祝)2年ぶりに茗溪会館で開催されました。

本件については、本誌次号(1112・春号)に掲載予定です。

公益財団法人 柴田育英会だより

去る10月21日(木)、公益財団法人に対して3年ごとに行われる内閣府の立入検査が、柴田育英会に対して実施されました。当該検査は、最初2021年1月(昨年度)に予定されていましたが、昨今のコロナ禍により2回延期になり本年度分として実施されました。

表紙の言葉

本号の表紙の写真は、茗溪創基150年記念品として製作される扇子のデザイン原図です。これは本号のグラビア頁に紹介されているように、中村伸夫氏(57筑修芸・筑波大学名誉教授)が揮毫された嘉納治五郎の「自他共栄」という書です。以下が中村先生の書に関する解説です。

「嘉納治五郎先生の名言「自他共栄」の四字を、繁栄を象徴する末広がりの扇面揮毫した作品です。

嘉納先生は中国古代の思想書を愛読されましたが、そのことに因み、紀元前の古代文字を素材としました。

特にこの作品は、秦の始皇帝が天下を統一する以前の戦国時代に、南方の強国「楚」で行われていた竹簡の文字を応用したものです。

記念品としてのこの扇子が、実用にも供されるよう、清楚で涼やかな表現となるよう筆を運びました。」

編集後記

本号より誌面の構成を、読み易さ等を考慮して、従来の文字サイズ9P・3段から、10P・4段に変更してみました(本号では経過措置として文字サイズなどが混在しています)。

文字数としては従来より減少しますが、読み易さ等を優先したものです。誌面等に関する皆さまからのご意見をお待ちしております。

次号は、2022年4月15日発行の1112・春号を予定しています。(事務局)

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお問い合わせいたします。

令和4年1月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二三

TEL 〇三三九四一〇二三六

FAX 〇三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇二二四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

— 筑波大学の知の発信 —
筑波大学出版会

筑波大学アートコレクション
石井コレクション シュン・ホン・ジョン
美をめぐる饗宴

五十殿利治 監修
寺門臨太郎 責任編集



筑波大学アート・コレクション「石井コレクション」の作品について、国内外の第一線の研究者が美術史、版画制作、保存・修復の立場で論じたアンソロジー

A5 判並製 436 頁 紙版
ISBN 978-4-904074-62-6 (紙版) C1070 定価 5,940 円

**視覚障害者のための
スポーツ指導**

宮本俊和・河合純一 編



視覚障害者スポーツの指導スキルの継承をはかることを目的とした、視覚障害者のパラリンピックスポーツ指導に必要な知識や指導実践法を紹介

B5 判並製 250 頁 紙版・電子版
ISBN 978-4-904074-63-3 (紙版) C2075 定価 4,950 円

近日刊行
**北米先住民族の
宗教と神話の世界**
— 歴史と文化交渉の観点から —

木村武史 著

(令和4年1月28日刊行予定)

販売・丸善出版

株式会社 阿部兄弟建築事務所
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 荒井 豊人(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

経営・労務・年金etc. コンサルタント
福岡経営労務事務所

〒125-0042 葛飾区金町3-27-3

TEL 03(3607)0551 FAX 03(5876)4338

所 長 福岡 一雄 (32教大法政)
社会保険労務士



URL <http://www.juwa.com> E-mail: travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

株式会社 岩手チキン工房

— みんなに笑顔をお届けします。 —

代表取締役 田中 修 (昭54筑農林)
社 長

〒028-3309 岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内85-1
TEL: 019(676)4121 FAX: 019(676)4464
<http://www.i-c-koubou.co.jp>

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～若溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ
代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡
2004年卒)

FXC
Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者:代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケエスアイ**

本 社 〒557-0063
大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

株式会社 長谷工 コーポレーション

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)4501

取締役専務執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

広告を募集しています。事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136 FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp ホームページ <http://www.meikei.or.jp>

(株)ブライダルは
筑波大学同窓会会員の
皆様の「結婚」を応援します。



結婚

43年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会に貢献できる企業を目指しており、特に筑波大同窓会の皆様には平成17年より「筑波大コース」を設け、多くの方にご利用頂いております。この「茗溪」を見たとおっしゃってくだされば、茗溪会の皆様は登録料100%OFFにてご入会頂けます。

筑波大コース

登録料33,000円(税込)
100%OFF

お問い合わせ
(月曜定休)



0120-415-412

詳しくはホームページをご覧ください。

(株)ブライダル

検索



ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>



1978年創業
株式会社

ブライダル

東京本社
名古屋本社

〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗 溪 会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電 話 03(3941)0136

F A X 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群
航空・マネジメント学群(2020年4月開設)

桜美林学園 理事長・小池 一夫

学長 畑山 浩昭

入学部相談役 川田 孝一(昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町3758

桜美林大学入学部インフォメーションセンター

Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



タブレットでふれあう エンカウンター

教育エクレ

大友秀人・瀬尾尚隆・吉田ゆかり・伊藤友彦 編著 A5判, 120頁, 定価2,200円

1人1台端末の教室で、子どもたちの人間関係を育むエクササイズ

- 心のふれあいをしながら、教師も子どもも楽しくICTの基本を身につけられる！
- 学級開きや自他理解などに役立つ24のエクササイズをイラスト・指導案付で収録！
- ICT・エンカウンター初心者の先生にもおすすめ！

小・中・高に対応

おもな目次

第1章 タブレットの活用でSGEをどう展開するか

第2章 タブレットの上手な活用のために

第3章 ICTを活用したSGEエクササイズ

■学級開き……X先生を知るイエス・ノークイズ／先生とビンゴ／あいさつで名刺交換／座席表づくり

■自己理解・他者理解……二者択一／アドジャントーク／カラーワーク／しりとり絵描き／共同絵画／いいとこさがし／自分への表彰状／気になる自画像／1日5分の自分さがし／ブレーンストーミング／ふわふわ言葉とチクチク言葉／こころスケール／私の感情グラフ／いまの私は何色？／気持ちの整理箱

■生き方・進路……夢マップづくり／10年後の私／竹の節目、私の節目

■年度終わり……〇年△組が最高！／別れの花束

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15

http://www.toshobunka.co.jp/

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆文部科学省 SSH・SGH アソシエイト認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です

「SS研究・個人課題研究発表会」
(後援：筑波大学)および
「SSH活動報告会」開催のお知らせ

期日：令和4年3月15日(火)

会場：茗溪学園内

内容：本校高校2年生SS研究および個人課題研究(優秀研究)口頭発表・ポスター発表、
2021年度SSH活動成果報告
一般公開いたします。

(詳細はホームページまたは下記メールでお問い合わせください)



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)